

DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する市民意識調査

報告書

加東市

平成 30 年 1 月

目次

I	調査の概要.....	1
1.	調査の目的.....	1
2.	調査の方法.....	1
3.	回収結果.....	1
4.	報告書の見方.....	1
II	調査結果（18歳以上）.....	2
1.	回答者の属性.....	2
(1)	性別.....	2
(2)	年代.....	2
(3)	居住地域.....	2
(4)	職業.....	3
(5)	家族構成.....	3
(6)	婚姻状況.....	4
2.	虐待、セクシュアル・ハラスメントについて.....	5
(1)	子どもに対する虐待の経験等.....	5
(2)	高齢者に対する虐待の経験等.....	7
(3)	セクシュアル・ハラスメントの経験等.....	8
(4)	セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたときの対応.....	10
(5)	「DV（ドメスティック・バイオレンス）」の認知度.....	12
(6)	デートDVの認知度.....	14
(7)	「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の認知度.....	16
(8)	「配偶者暴力相談支援センター」の認知度.....	18
(9)	暴力にあたると思う行為.....	20
(10)	配偶者や交際相手から暴力を受けた経験.....	26
(11)	保護者間の暴力行為を子どもは知っているか.....	30
(12)	配偶者や交際相手から暴力を受けたときの相談相手.....	31
(13)	配偶者や交際相手から暴力を受けたことを相談しなかった理由.....	33
(14)	配偶者や交際相手から最初に暴力を受けたときの対応とその理由.....	36
(15)	配偶者や交際相手との間における暴力を防止するために必要なこと.....	40
II	調査結果（高校生）.....	43
1.	回答者の属性.....	43
(1)	性別.....	43
(2)	出身中学校.....	43
(3)	学年.....	43
2.	デートDVなどについて.....	44
(1)	「DV」の認知度.....	44
(2)	「デートDV」の認知度.....	45
(3)	「デートDV」をどこで知ったか.....	46
(4)	交際相手の有無、出会ったきっかけ.....	47
(5)	交際相手から暴力行為を受けた経験.....	49
(6)	交際相手から暴力行為を受けたときの対応とその理由.....	53
(7)	暴力にあたると思う行為.....	54
(8)	交際相手からの暴力を防止するために必要なこと.....	58

IV 平成 29 年度加東市連合 P T A 研修会でのアンケート調査結果.....	60
1. 調査の概要.....	60
2. 調査結果.....	60

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、平成 30 年度で計画期間の満了を迎える「加東市配偶者等暴力（DV）対策基本計画」の改訂にあたり、市民の DV に関する実態、意識、意向などを把握し、新計画策定の基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査の方法

（1）調査対象

- ・ 18 歳以上：平成 29 年 4 月 1 日現在、市内に居住する 18 歳以上の市民 4,000 人
- ・ 高校生：市内の高等学校に在籍する生徒 714 人

（2）抽出方法

- ・ 18 歳以上：住民基本台帳より無作為抽出
- ・ 高校生：市内の高等学校に在籍する生徒全員

（3）調査方法

- ・ 18 歳以上：〈配布〉郵送、〈回収〉郵送またはインターネットによる方法を回答者が選択
- ・ 高校生：学校にて配布・回収（調査票は無記名）

（4）調査期間

- ・ 18 歳以上：平成 29 年 8 月 23 日（水）～平成 29 年 9 月 15 日（金）
- ・ 高校生：平成 29 年 8 月 29 日（火）～平成 29 年 8 月 31 日（木）

3. 回収結果

18 歳以上	4,000	1,490	0	1,490	37.3%
高校生	714	701	0	701	98.2%

4. 報告書の見方

○本文中および図中に示した集計結果は、その質問の回答者数を基数（n）として算出し、百分率（％）で示しています。

○集計結果は小数点第 2 位で四捨五入しているため、回答比率の合計が 100.0% とならない場合があります。

○複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0% を超えることがあります。またグラフには以下の表示を付記しています。

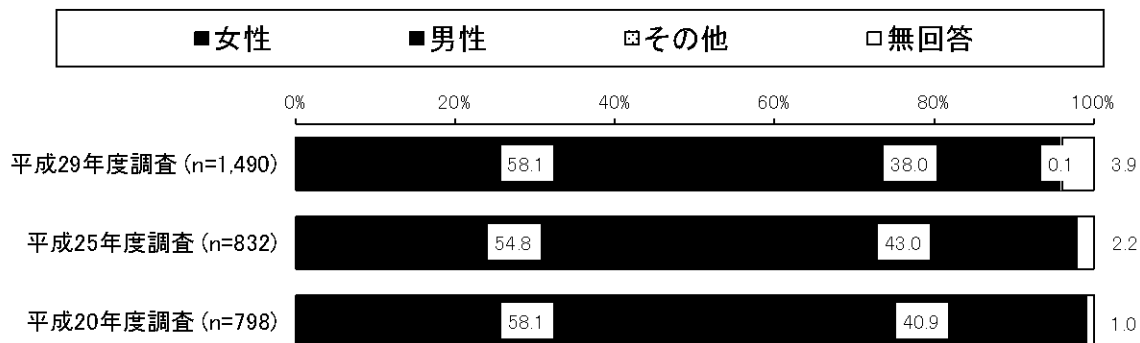
- ・ MA%（Multiple Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものすべてを選択する場合
- ・ 3L A%（3Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを 3 つまで選択する場合
- ・ 2L A%（2Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを 2 つまで選択する場合

○紙面の都合上、設問の選択肢を短縮して記載している場合があります。

II 調査結果（18 歳以上）

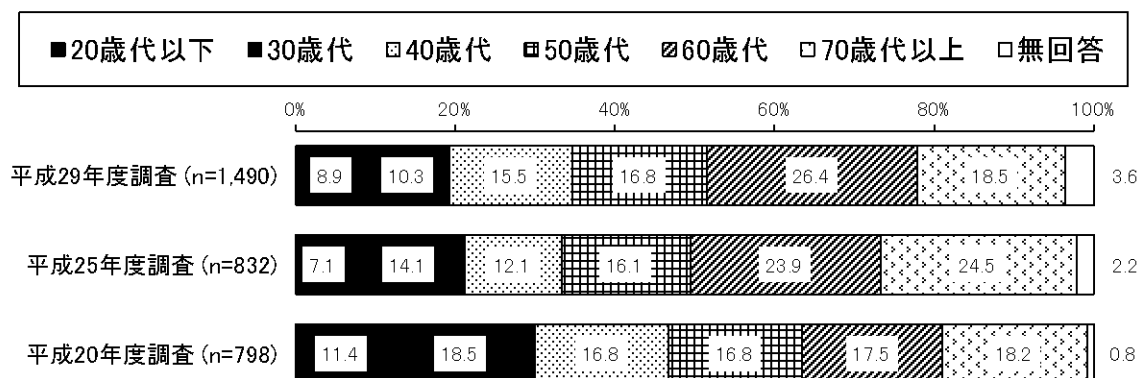
1. 回答者の属性

（1）性別

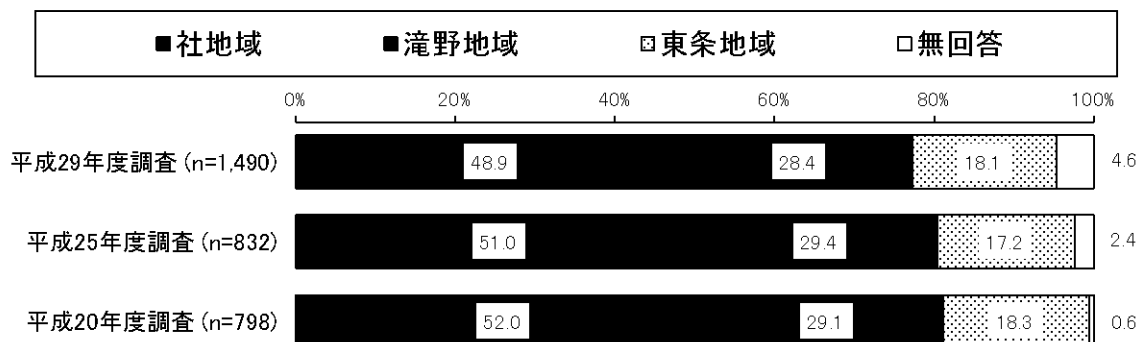


※平成25年度調査以前は「その他」の選択肢はありません。

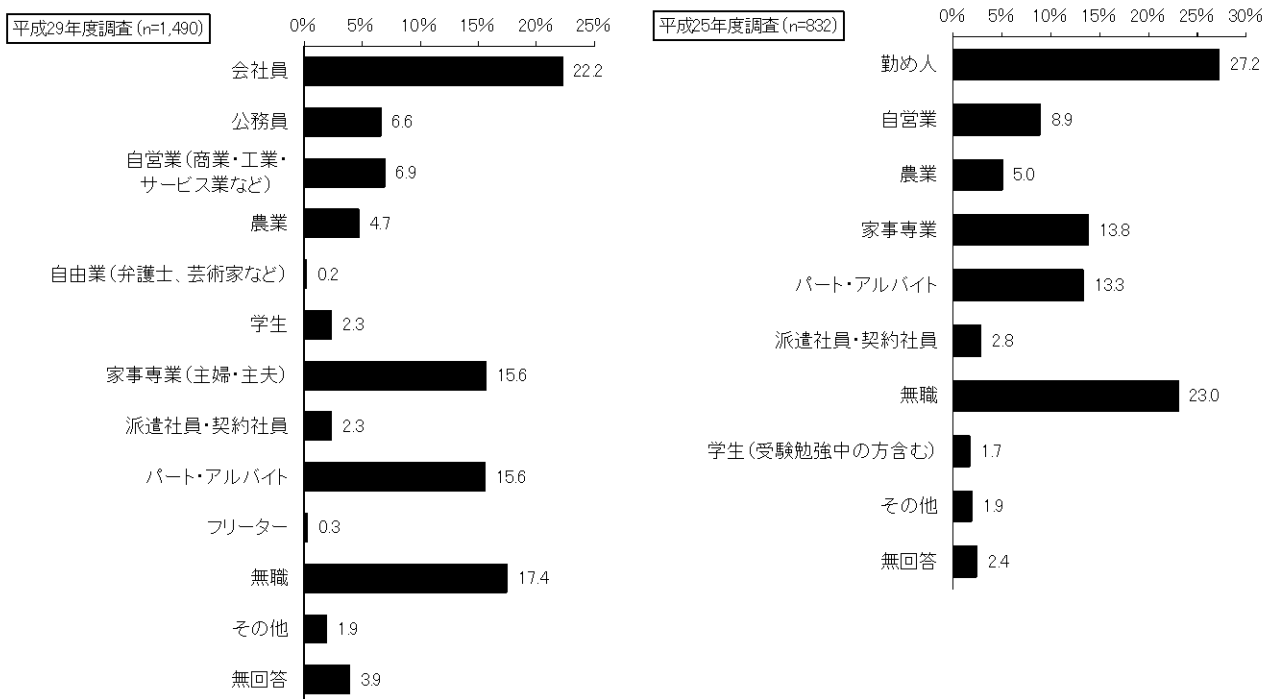
（2）年代



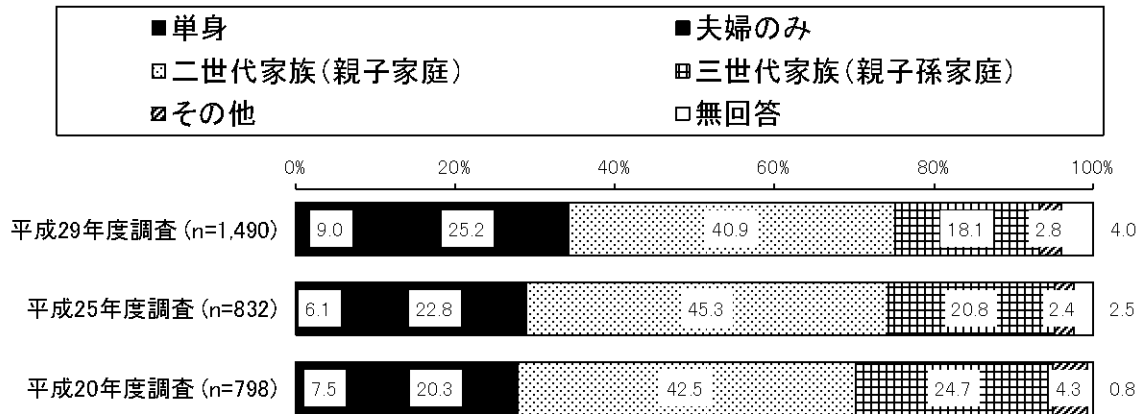
（3）居住地域



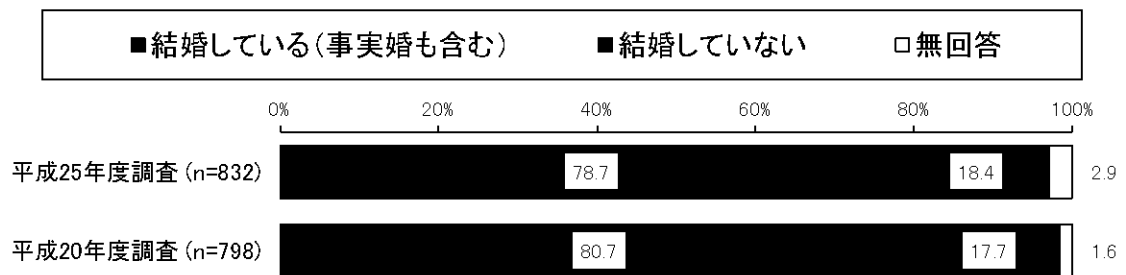
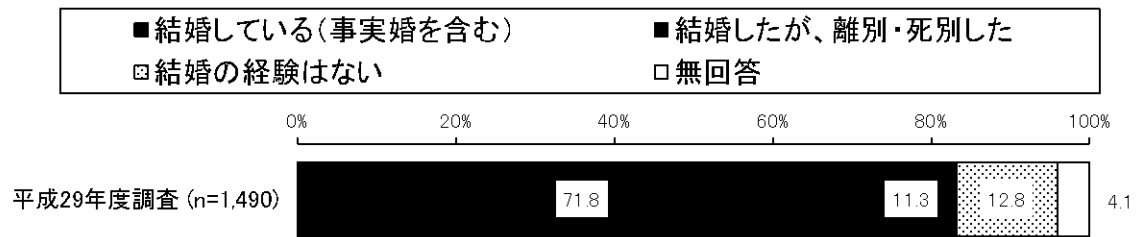
(4) 職業



(5) 家族構成



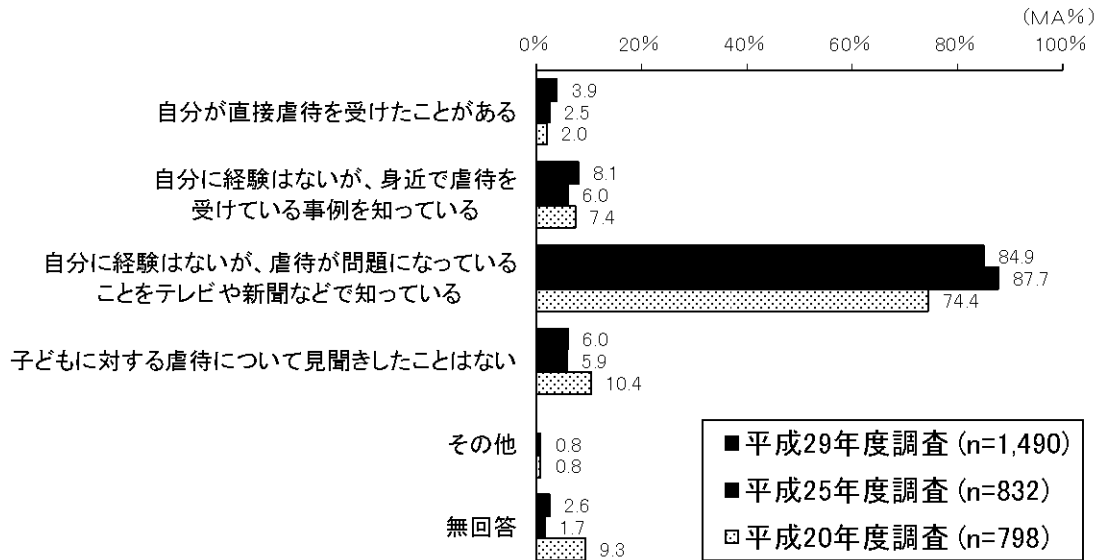
(6) 婚姻状況



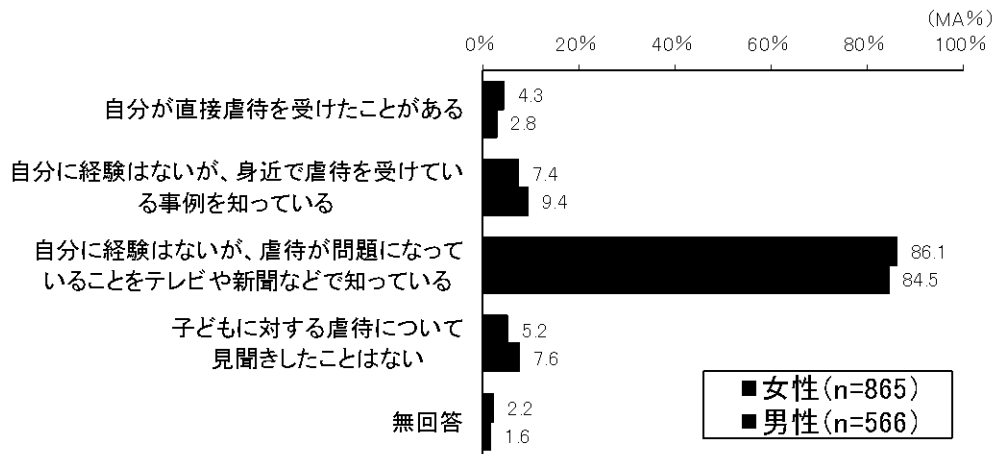
2. 虐待、セクシュアル・ハラスメントについて

(1) 子どもに対する虐待の経験等

※今回の調査には「その他」はありません。



【性別 子どもに対する虐待の経験等】

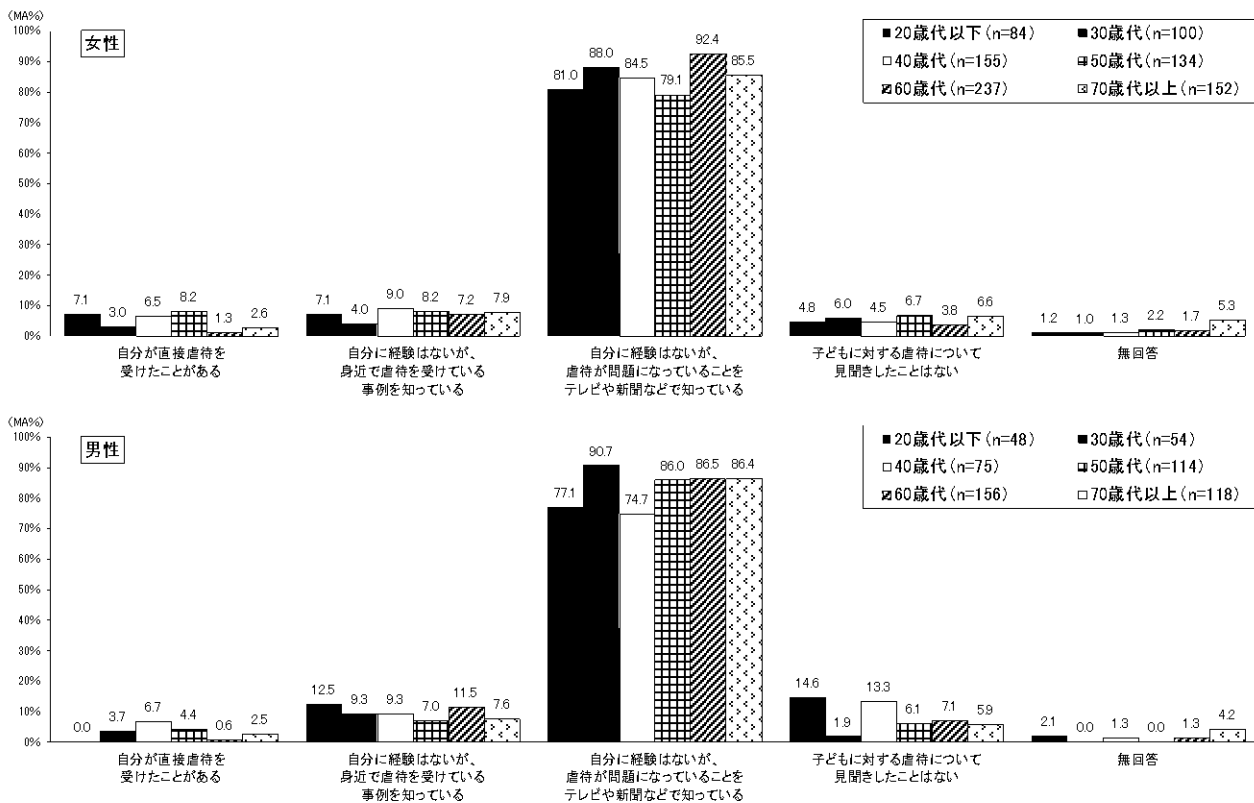


子どもに対する虐待の経験等をたずねたところ、「自分が直接虐待を受けたことがある」が3.9%となっています。

平成25年度調査、平成20年度調査と比べると、「自分が直接虐待を受けたことがある」と「自分に経験はないが、身近で虐待を受けている事例を知っている」がやや増加しています。

性別にみると、女性は男性と比べて「自分が直接虐待を受けたことがある」が多くなっています。

【性・年齢別 子どもに対する虐待の経験等】

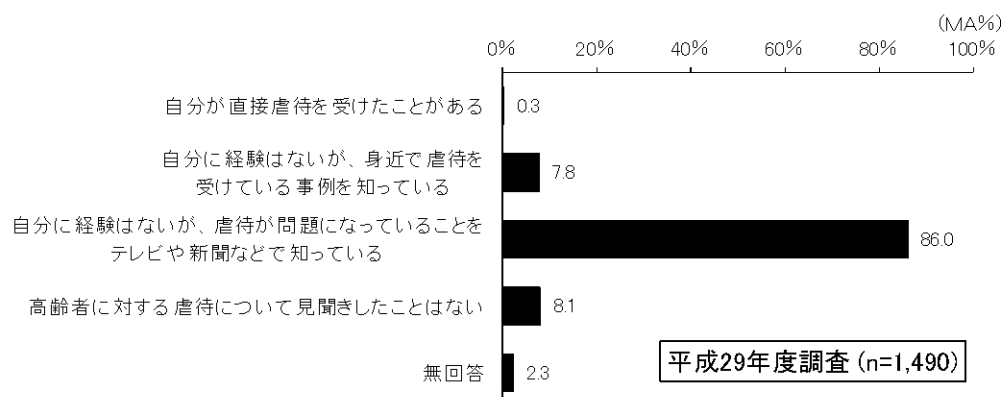


子どもに対する虐待の経験等を性・年齢別にみると、「自分が直接虐待を受けたことがある」は女性の40歳代が最も多く8.2%となっています。

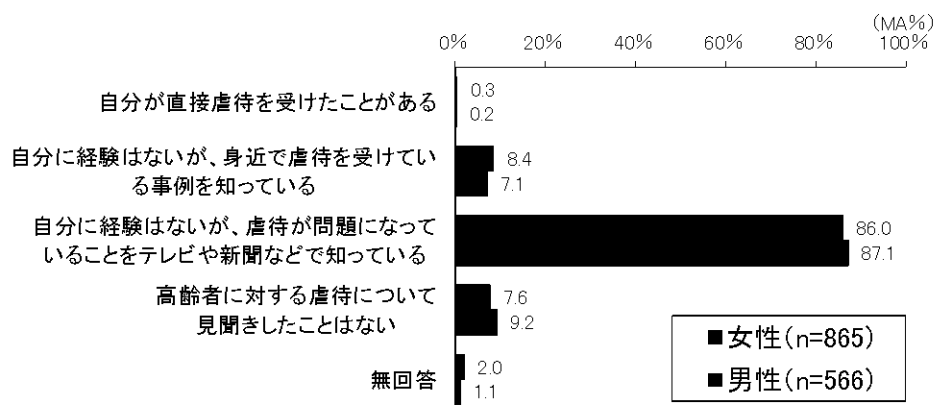
〈考察・まとめ〉

自分が虐待を受けた経験のある人や、身近で虐待事例を知っている人が増加しています。
自分が虐待を受けた経験のある人は男性より女性のほうがやや多くなっています。

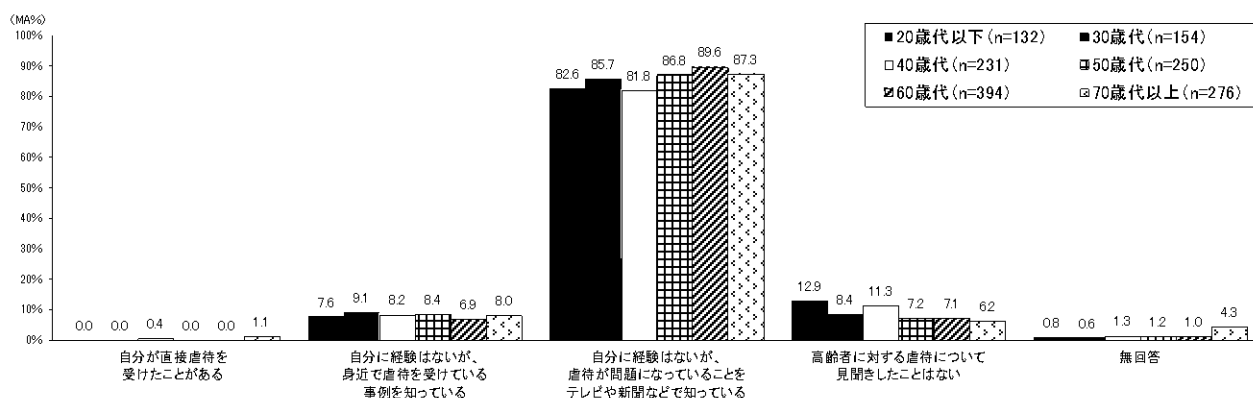
(2) 高齢者に対する虐待の経験等



【性別 高齢者に対する虐待の経験等】



【年齢別 高齢者に対する虐待の経験等】



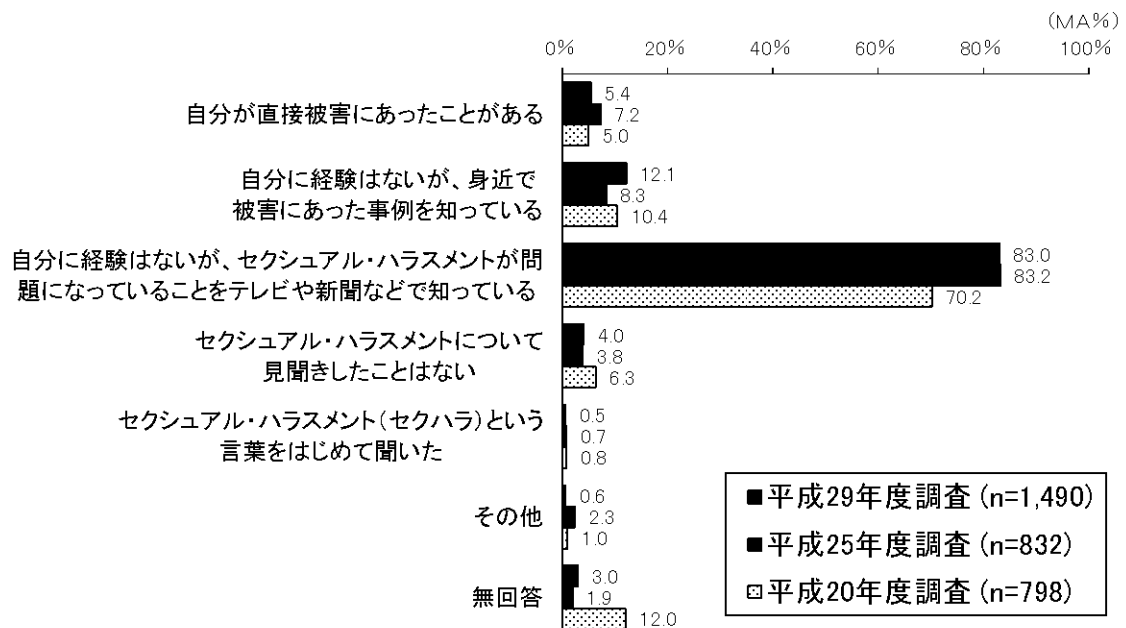
高齢者に対する虐待の経験等についてたずねたところ、「自分が直接虐待を受けたことがある」は0.3%となっています。

性別にみると、男女で大きな違いはみられません。年齢別にみると、「自分が直接虐待を受けたことがある」は60歳代では0%ですが、70歳代以上では1.1%となっています。

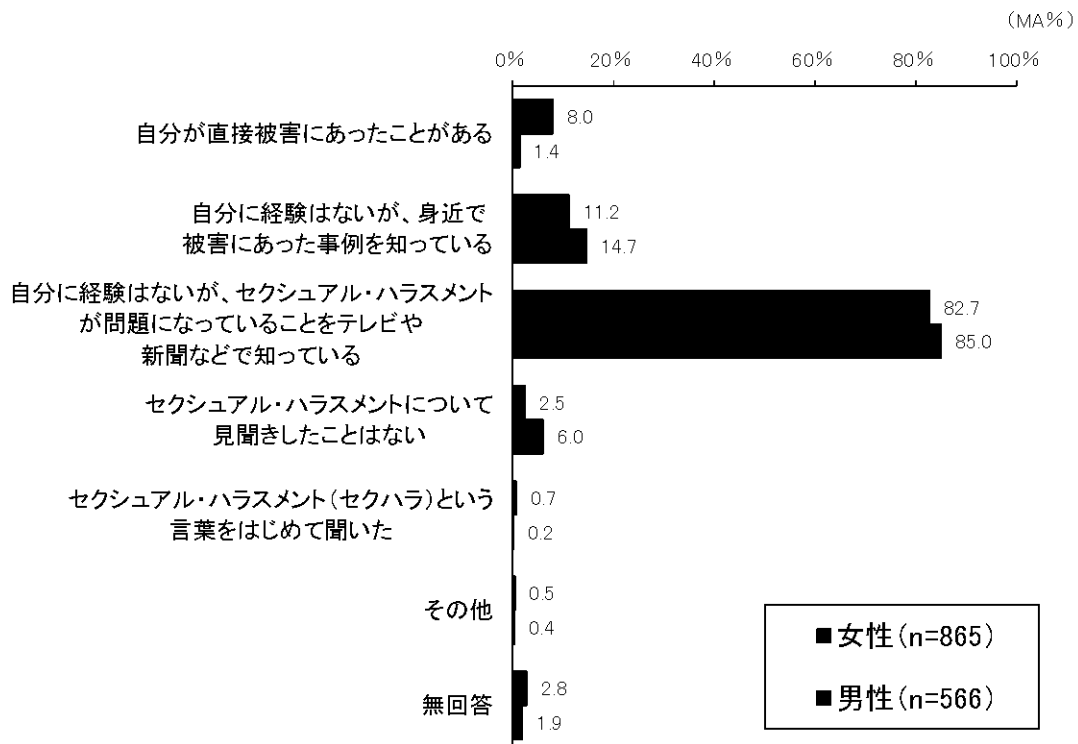
〈考察・まとめ〉

高齢者に対する虐待が発生していますが、60歳代にはおらず、要介護状態になりやすい70歳代以上の人が虐待を受けていることがうかがえます。

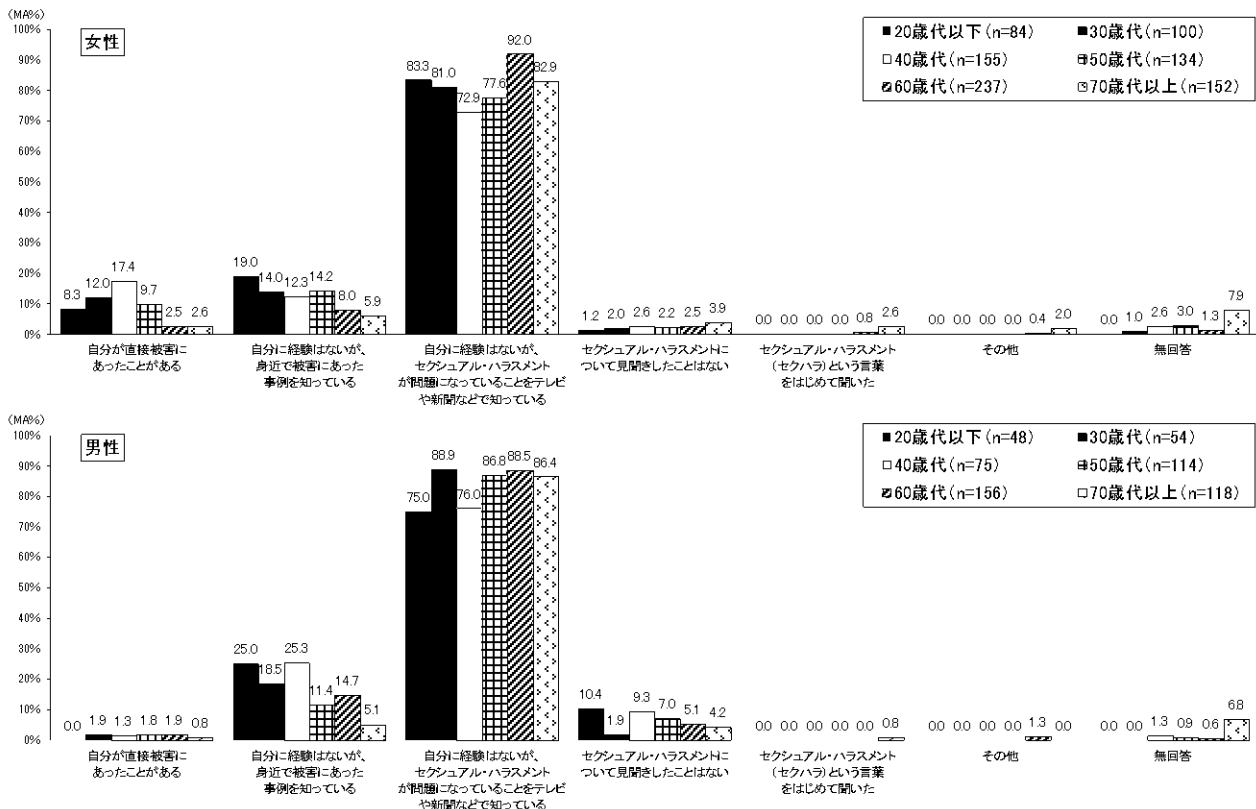
(3) セクシュアル・ハラスメントの経験等



【性別 セクシュアル・ハラスメントの経験等】



【性・年齢別 セクシュアル・ハラスメントの経験等】



セクシュアル・ハラスメントの経験等をたずねたところ、「自分が直接被害を受けたことがある」は 5.4%となっています。

平成 25 年度調査と比べると、「自分が直接被害を受けたことがある」はやや減少しています。

性別にみると、「自分が直接被害を受けたことがある」男性は 1.4%ですが、女性は 8.0%と男性を大きく上回っています。一方、男性は女性と比べて「自分に経験はないが、身近で被害にあった事例を知っている」がやや多くなっています。

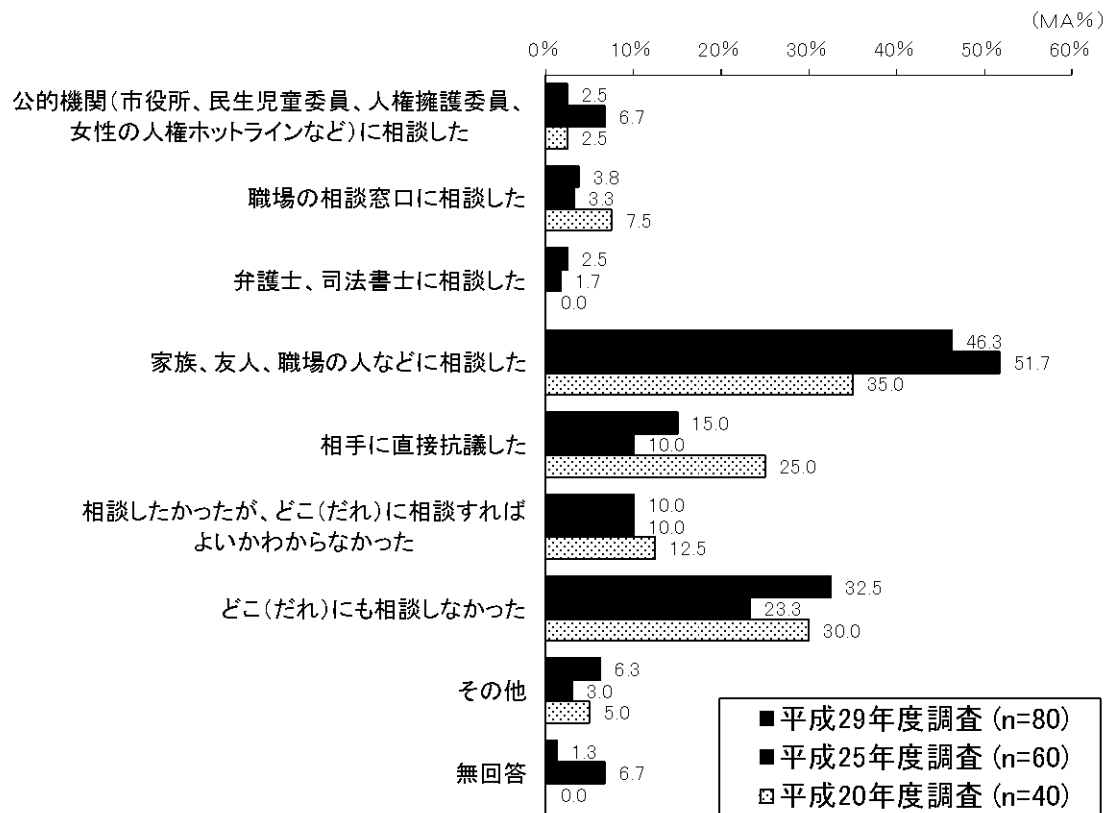
年齢別にみると、「自分が直接被害を受けたことがある」は 40 歳代の女性に最も多く 17.4%となっています。

〈考察・まとめ〉

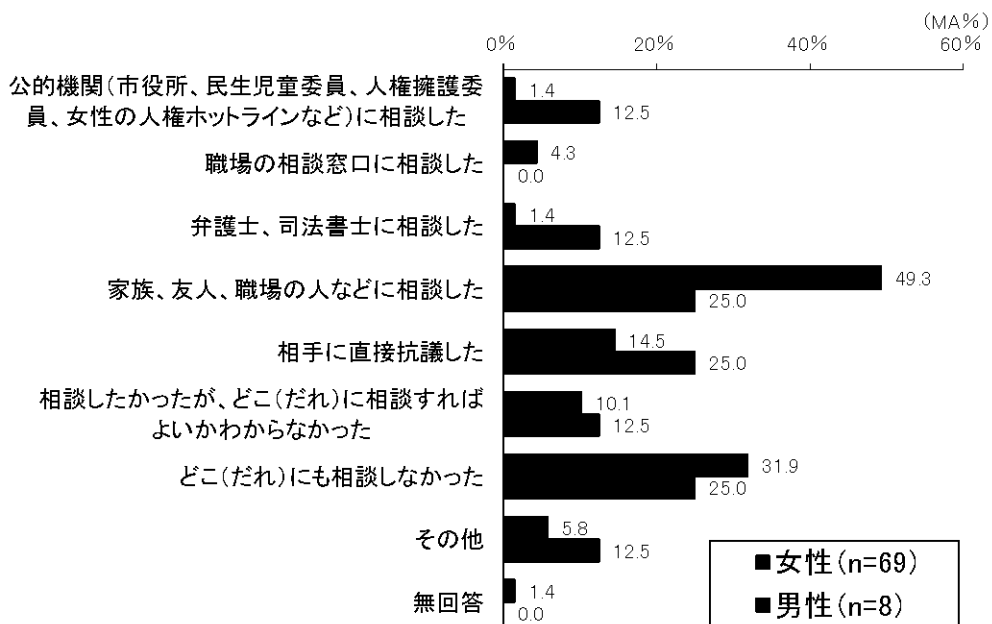
男性でもセクシュアル・ハラスメントの経験がありますが、女性のほうが多く約 1 割の人がセクシュアル・ハラスメントの経験があると回答しています。

セクシュアル・ハラスメントの経験がある人は女性の 40 歳代に最も多く、また男性の 40 歳代は事例を知っている人が多くなっています。

(4) セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたときの対応



【性別 セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたときの対応】



セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたことがある人に、そのときの対応をたずねたところ、「家族、友人、職場の人などに相談した」が46.3%と最も多く、次いで「どこ（だれ）にも相談しなかった」が32.5%、「相手に直接抗議した」が15.0%などとなっています。

平成25年度調査、平成20年度調査と比べると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」がやや増加しています。

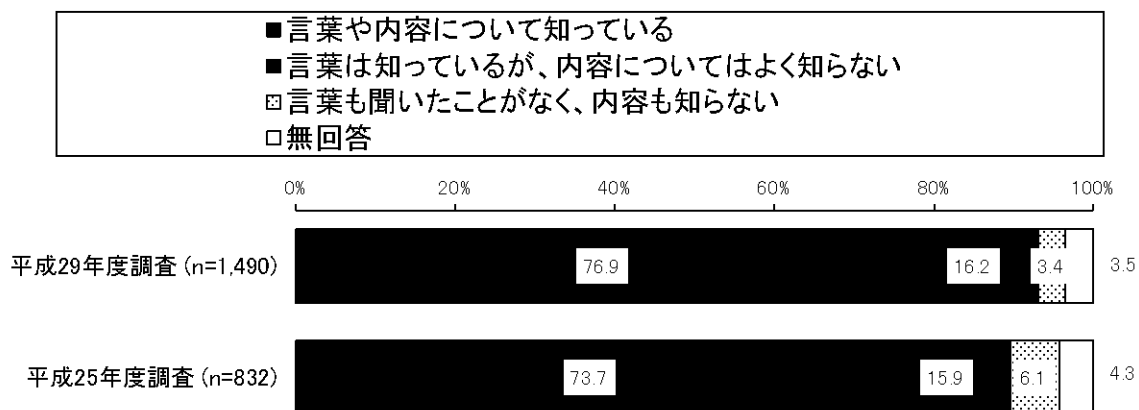
性別にみると、女性は男性と比べて「家族、友人、職場の人などに相談した」、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が多く、男性は女性と比べて主に「相手に直接抗議した」、「公的機関に相談した」、「弁護士、司法書士に相談した」が多くなっています。

〈考察・まとめ〉

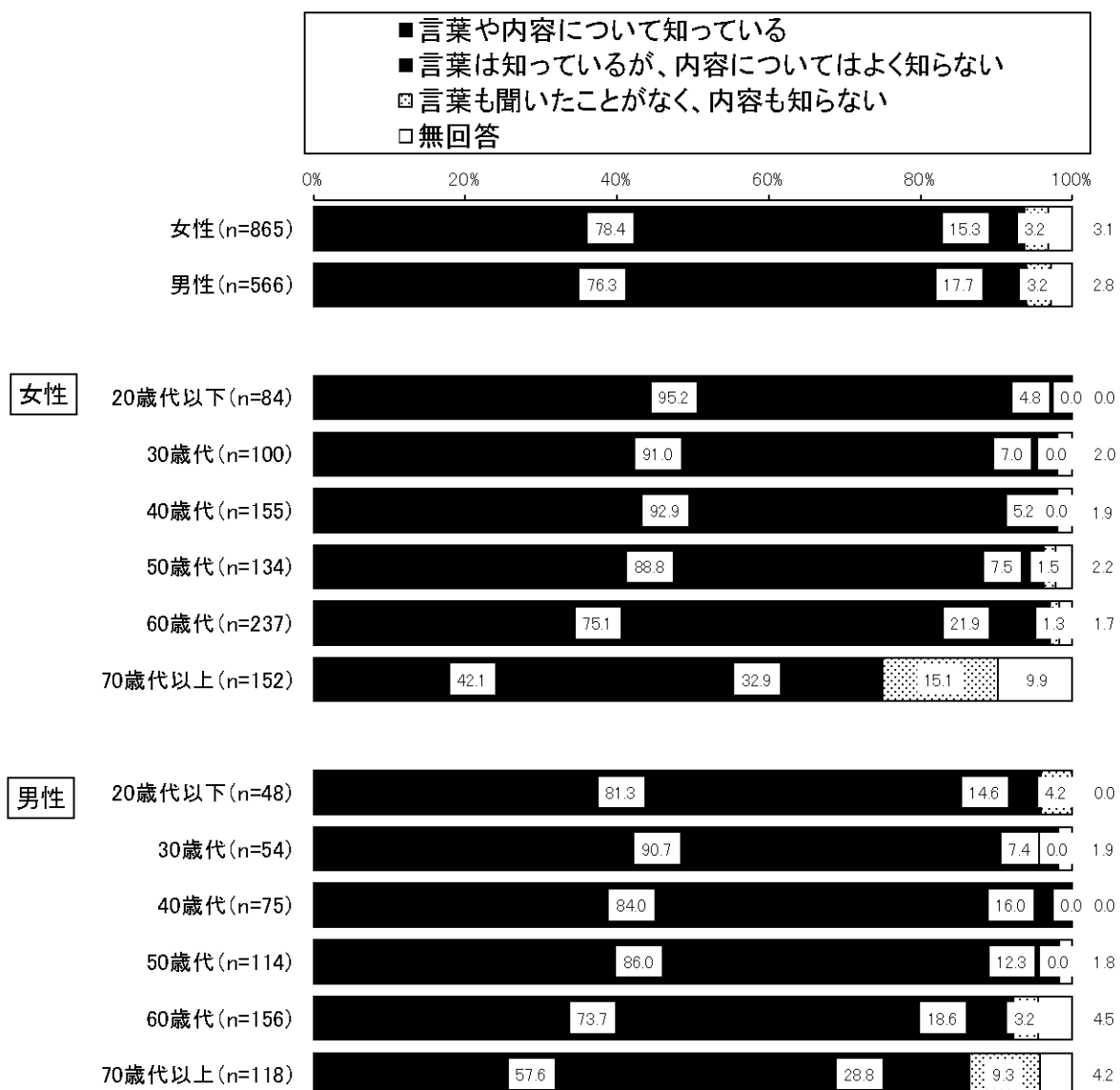
セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたとき、どこ（だれ）にも相談しなかった人が男女ともに少なくありません。

また女性は、直接相手に抗議したり、公的機関や弁護士などといった外部の相談窓口を利用した人は少なくなっています。一方男性は、回答者が少ないので比較しにくいものの、直接相手に抗議したり、外部の相談窓口を利用する人が多くなっています。

(5) 「DV（ドメスティック・バイオレンス）」の認知度



【性別、性・年齢別 「DV（ドメスティック・バイオレンス）」の認知度】



「DV（ドメスティック・バイオレンス）」の認知状況についてたずねたところ、「言葉や内容について知っている」は76.9%となっています。

平成25年度調査と比べると、「言葉や内容について知っている」は増加しています。

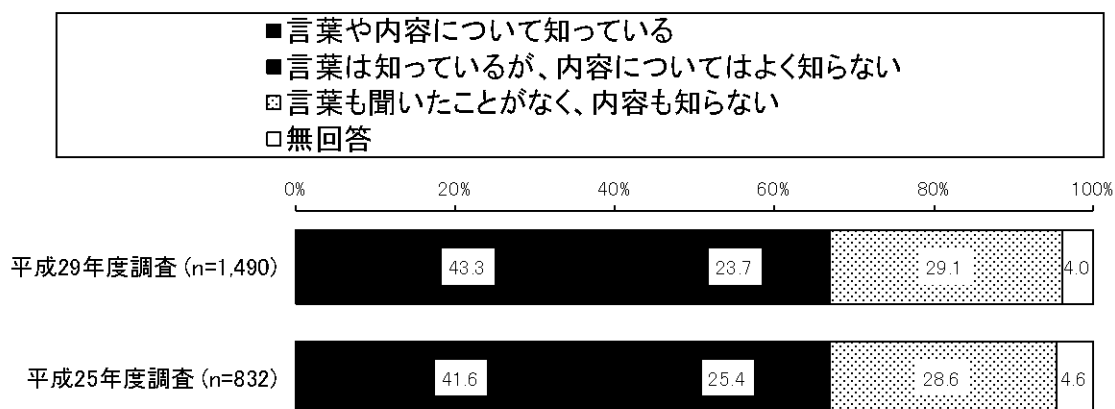
性別にみると、男性は女性と比べて「言葉や内容について知っている」がやや少なくなっています。

性・年齢別にみると、男女ともに60歳代以上は「言葉や内容について知っている」が少なくなっています。

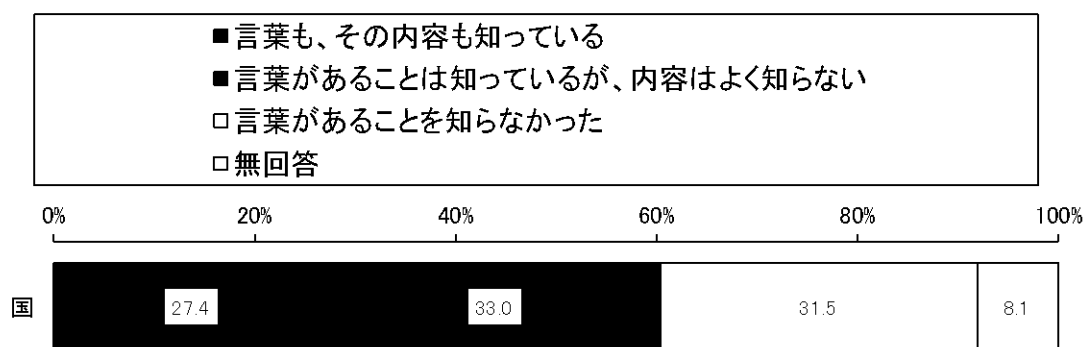
〈考察・まとめ〉

「DV」の認知度（内容まで知っている人）は増加しており8割近くとなっていますが、高齢者では認知度が低くなっています。また、男性は女性と比べて内容まで知っている人が少なくなっています。

(6) デートDVの認知度



《国の調査結果》



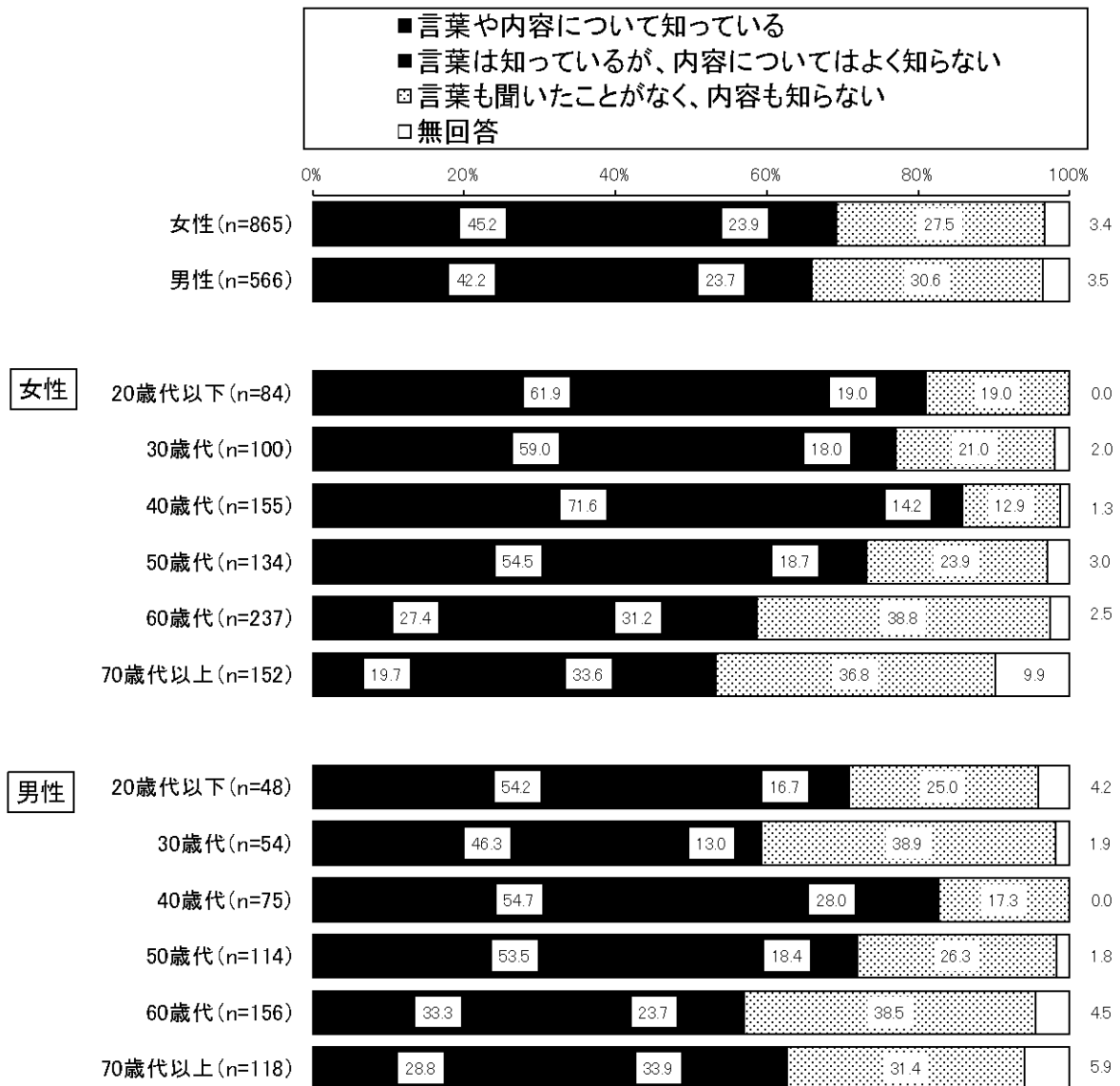
国（内閣府）	
男女間における暴力に関する調査票（平成26年度調査）	
問	あなたは、「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について、知っていますか。 あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

デートDVの認知状況についてたずねたところ、「言葉や内容について知っている」は43.3%となっています。

平成25年度調査と比べると、「言葉や内容について知っている」はやや増加しています。

国の調査では、「言葉も、その内容も知っている」は27.4%となっています。

【性別、性・年齢別 デートDVの認知度】



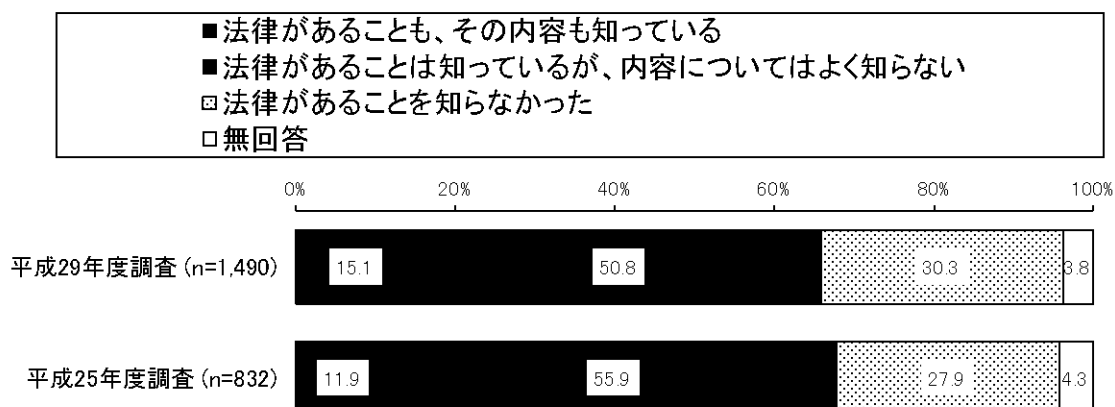
デートDVの認知状況について性別にみると、男性は女性と比べて「言葉や内容について知っている」が少なくなっています。

性・年齢別にみると、男女ともに60歳代以上は「言葉や内容について知っている」が2～3割前後と少なくなっています。

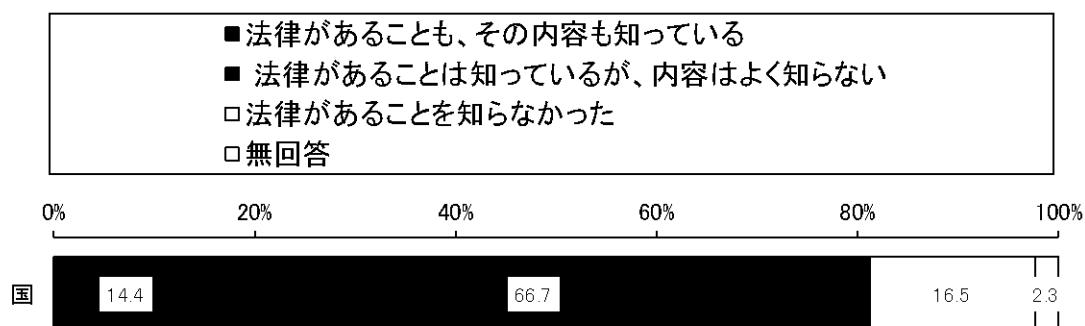
〈考察・まとめ〉

「DV」と同様に「デートDV」の認知度（内容まで知っている人）は増加しており、国の調査と比べても市の認知度は高くなっていますが、それでも内容まで知っている人は半数に満たない状況となっています。また、「DV」と同様に、男性は女性と比べて内容まで知っている人が少なくなっています。

(7) 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の認知度



《国の調査結果》



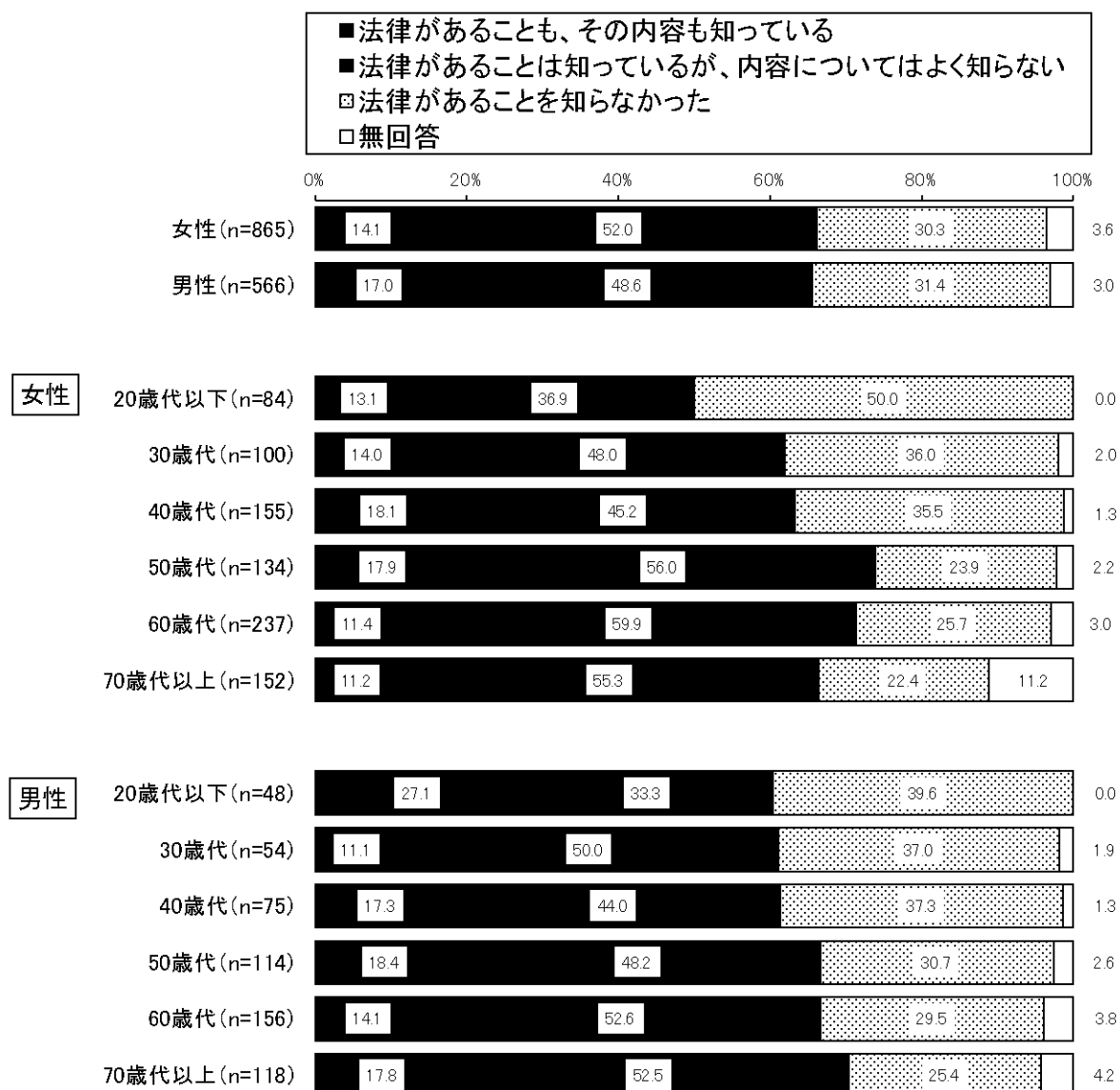
国（内閣府）	
男女間における暴力に関する調査票（平成26年度調査）	
問	あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（配偶者暴力防止法）」を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ） （この法律は、配偶者からの暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）に関する相談などの体制を整備することにより、配偶者からの暴力を防止し、被害者の保護を図るものです。）

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の認知状況についてたずねたところ、「法律があることも、その内容も知っている」は15.1%となっています。

平成25年度調査と比べると、「法律があることも、その内容も知っている」が増加していますが、「法律があることを知らなかった」もやや増加しています。

国の調査では、「法律があることも、その内容も知っている」は14.4%、「法律があることを知らなかった」は16.5%となっています。

【性別、性・年齢別 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の認知度】



「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の認知状況について性別にみると、女性は男性と比べて「法律があることも、その内容も知っている」が少なくなっています。

性・年齢別にみると、男性の20歳代以下は「法律があることも、その内容も知っている」が約3割となっていますが、それ以外の性・年齢では1割台となっています。

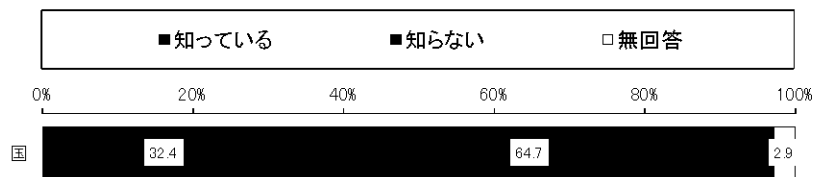
〈考察・まとめ〉

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の認知度（内容まで知っている人）は増加していますが、法律自体を知らない人がやや増加しています。また、国の調査と比べると、法律自体を知らない人が多くなっています。

(8) 「配偶者暴力相談支援センター」の認知度

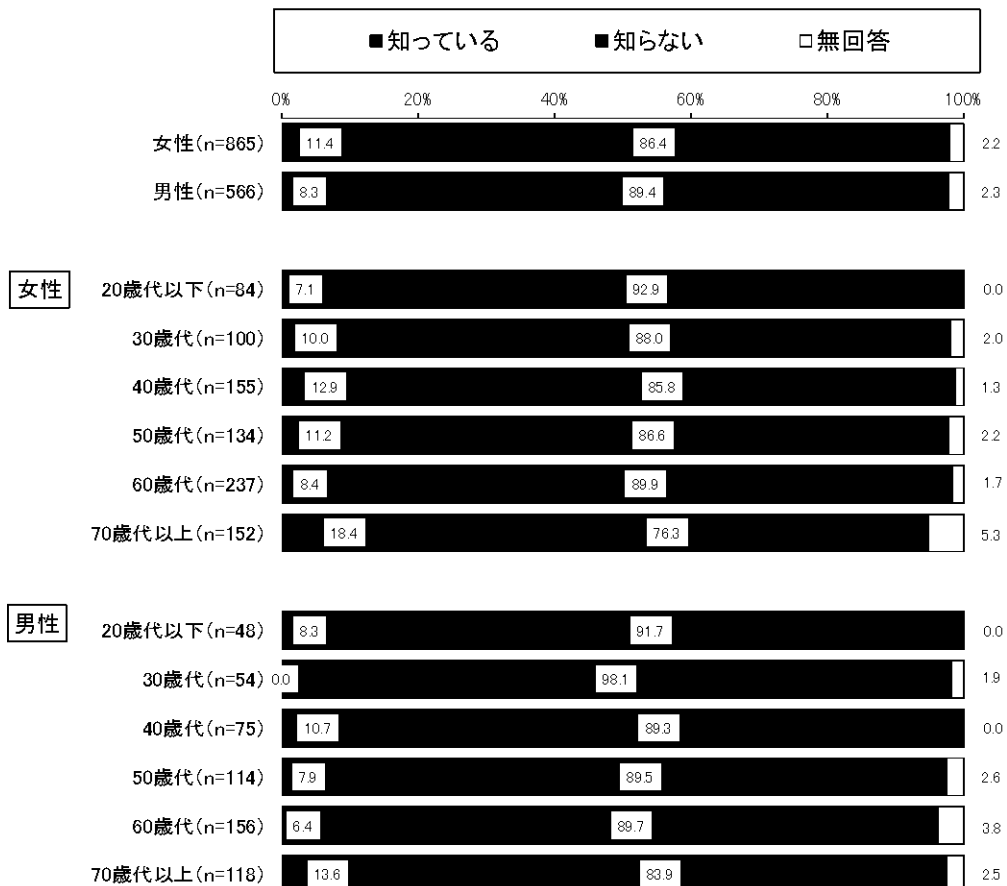


《国の調査結果》



国（内閣府）	
男女間における暴力に関する調査票（平成26年度調査）	
問	あなたは、配偶者からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

【性別、性・年齢別 「配偶者暴力相談支援センター」の認知度】



「配偶者暴力相談支援センター」の認知状況をたずねたところ、「知っている」は10.1%となっています。

国の調査では、「知っている」が32.4%となっています。

性別にみると、男性は女性と比べて「知っている」が少なくなっています。

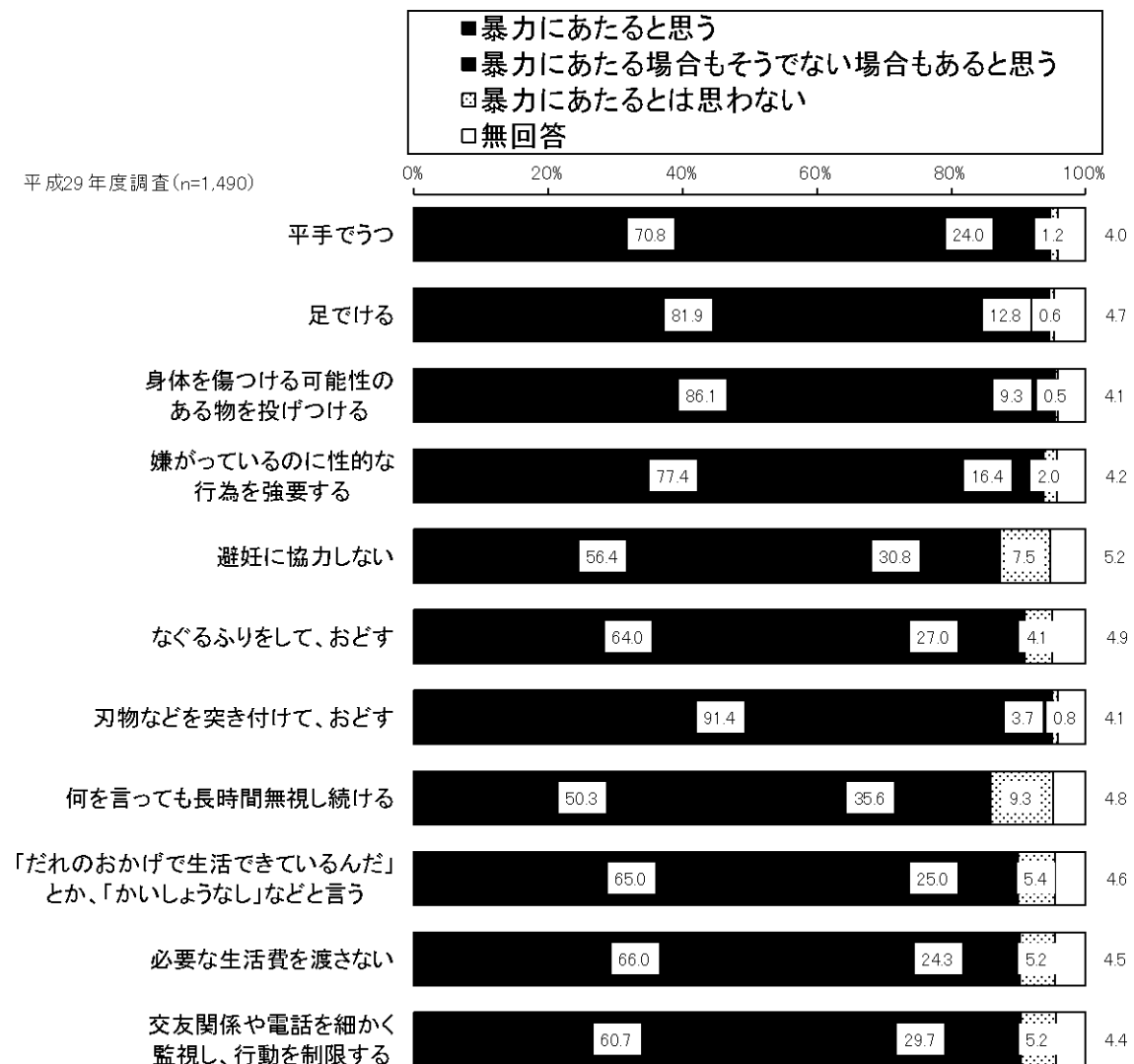
性・年齢別にみると、男性の30歳代は「知っている」が0%となっています。

〈考察・まとめ〉

「配偶者暴力相談支援センター」を知っている人は約1割で、国の調査と比べてDVの相談機関を知っている人が少なくなっています。

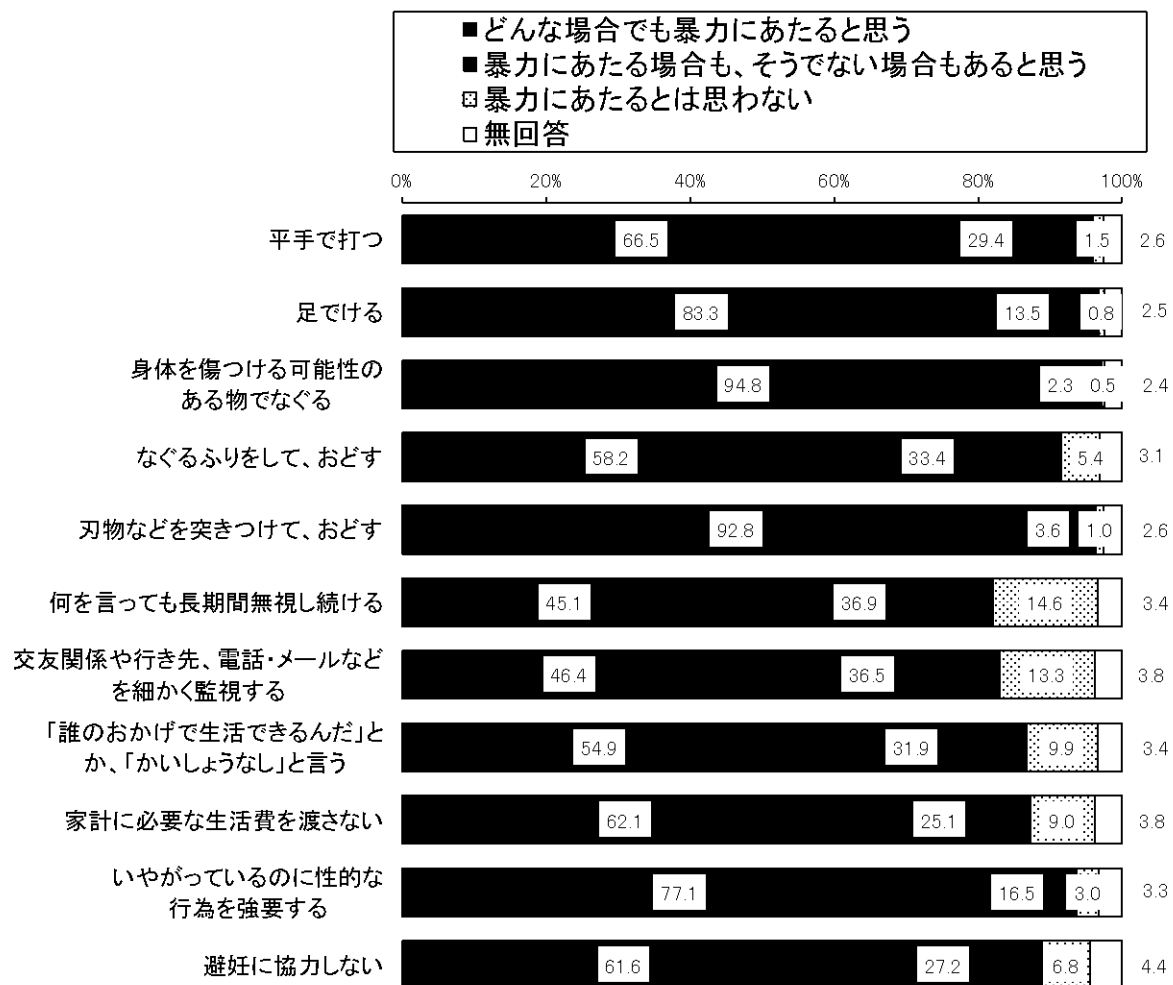
市の「配偶者暴力相談支援センター」は、本調査の約5か月前（平成29年4月1日）に開設したばかりであることから、認知度が低くなっていると考えられます。

(9) 暴力にあたると思う行為



暴力にあたると思う行為についてたずねたところ、「暴力にあたると思う」が多い行為は順に、「刃物などを突き付けて、おどす」(91.4%)、「身体を傷つける可能性のある物を投げつける」(86.1%)、「足でける」(81.9%)などとなっています。一方、「暴力にあたると思う」が少ない行為は順に、「何を言っても長時間無視し続ける」(50.3%)、「避妊に協力しない」(56.4%)、「交友関係や電話を細かく監視し、行動を制限する」(60.7%)などとなっています。

《国の調査結果》

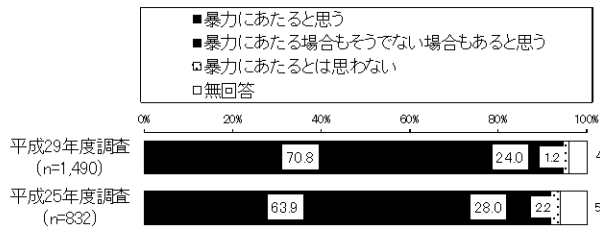


国（内閣府）	
男女間における暴力に関する調査票（平成26年度調査）	
問	あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。それぞれについて、あなたの考えに近い番号に○をつけてください。なお、ここでの「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。（○はそれぞれ1つずつ）

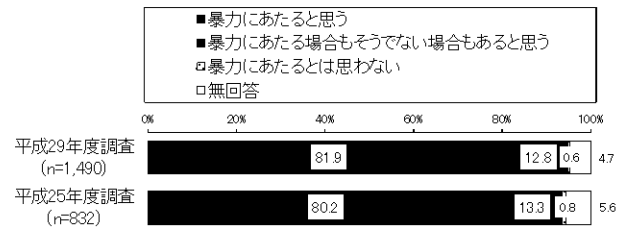
国の調査では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が多い行為は順に、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」（94.8%）、「刃物などを突きつけて、おどす」（92.8%）、「足でける」（83.3%）などとなっています。

【調査年度別 暴力にあたると思う行為】

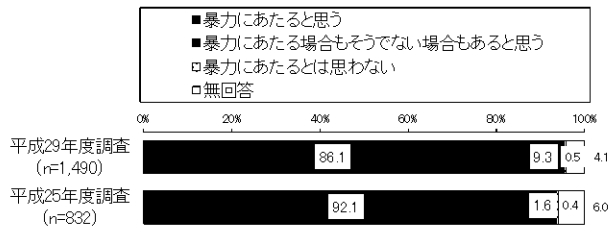
■平手でうつ



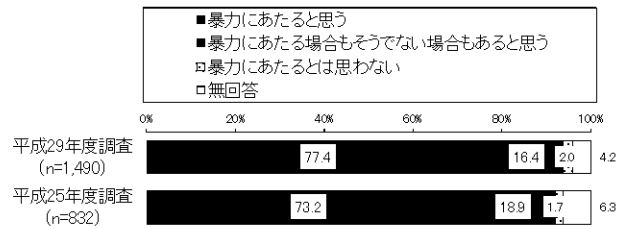
■足でける



■身体を傷つける可能性のある物を投げつける

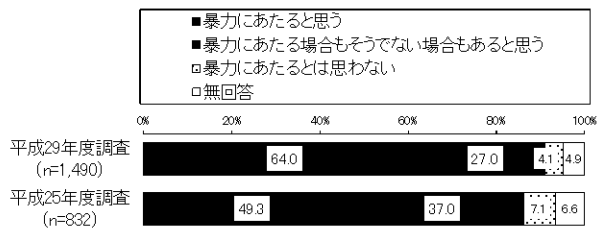


■嫌がっているのに性的な行為を強要する

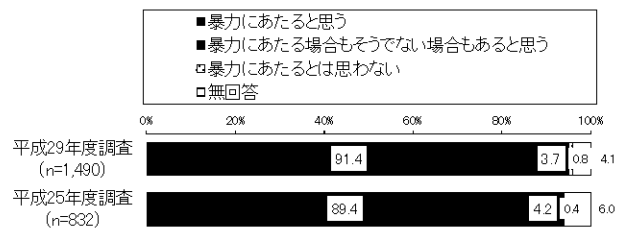


※「身体を傷つける可能性のある物を投げつける」は、前回調査では「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」となっています。

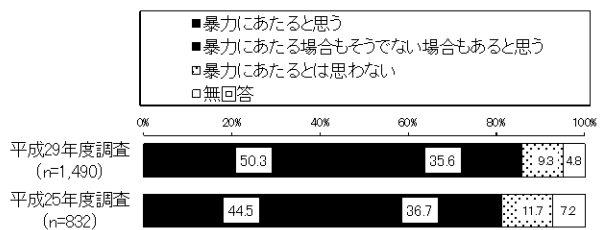
■なぐるふりをして、おどす



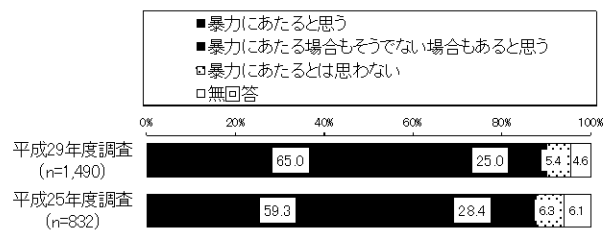
■刃物などを突き付けて、おどす



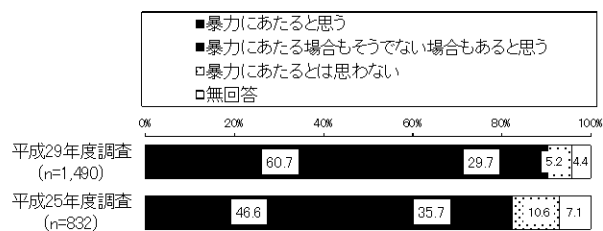
■何を言っても長時間無視し続ける



■「だれのおかげで生活できているんだ」とか、「かいしょうなし」などと言う



■交友関係や電話を細かく監視し、行動を制限する

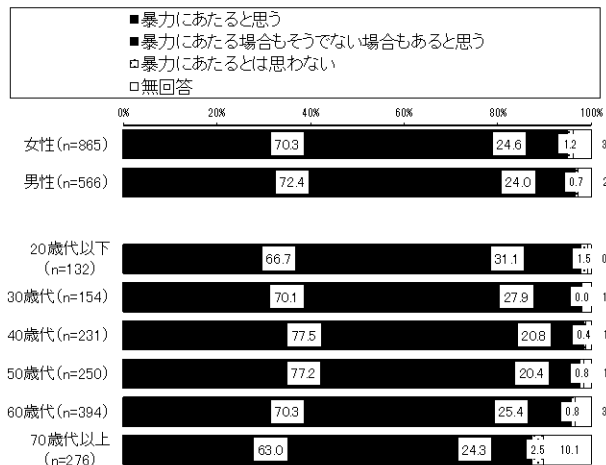


※「交友関係や電話を細かく監視し、行動を制限する」は、前回調査では「交友関係や電話を細かく監視する」となっています。

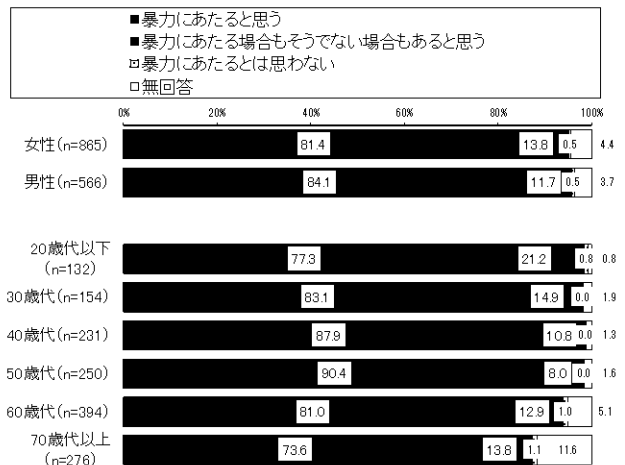
暴力にあたると思う行為について平成 25 年度調査と比べると、「身体を傷つける可能性のある物を投げつける」では「暴力にあたると思う」が減少しています。それ以外の行為については、「暴力にあたると思う」が増加しています。特に「なぐるふりをして、おどす」と「交友関係や電話を細かく監視し、行動を制限する」については、「暴力にあたると思う」が大きく増加しています。

【性別、年齢別 暴力にあたると思う行為】

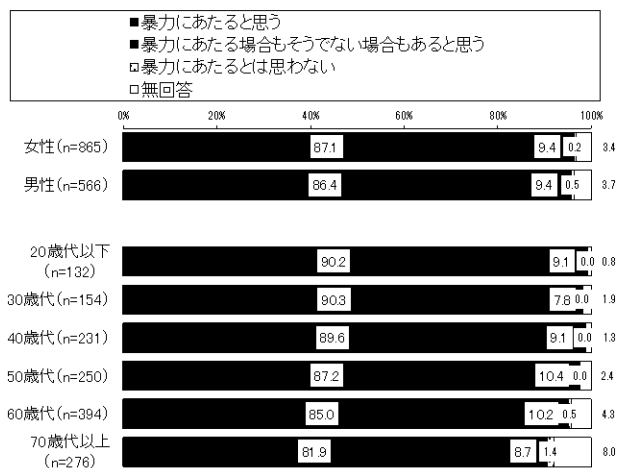
■平手でうつ



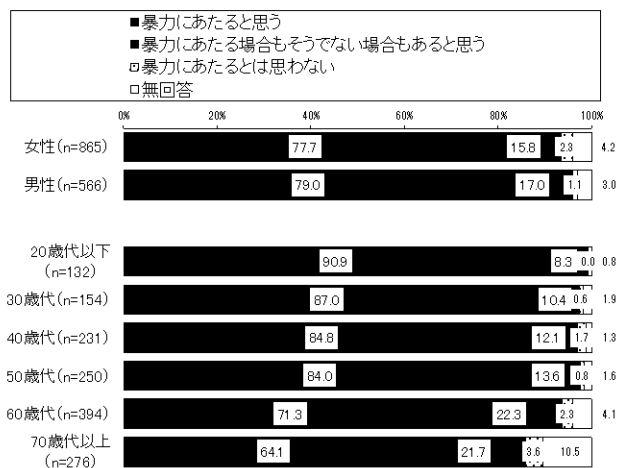
■足でける



■身体を傷つける可能性のある物を投げつける

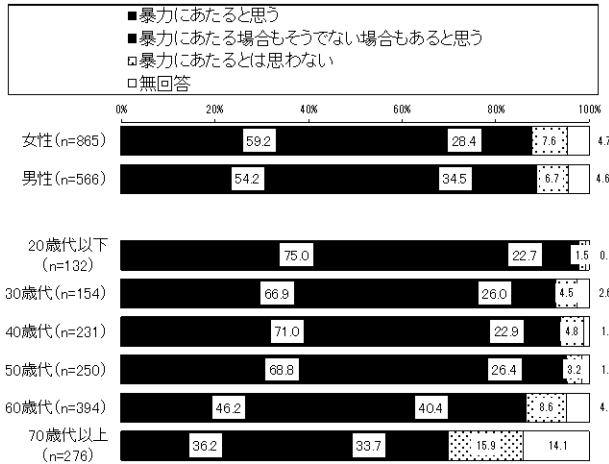


■嫌がっているのに性的な行為を強要する

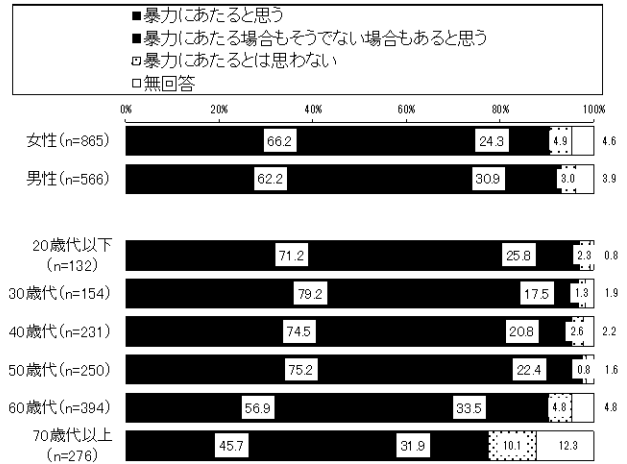


【性別、年齢別 暴力にあたると思う行為】

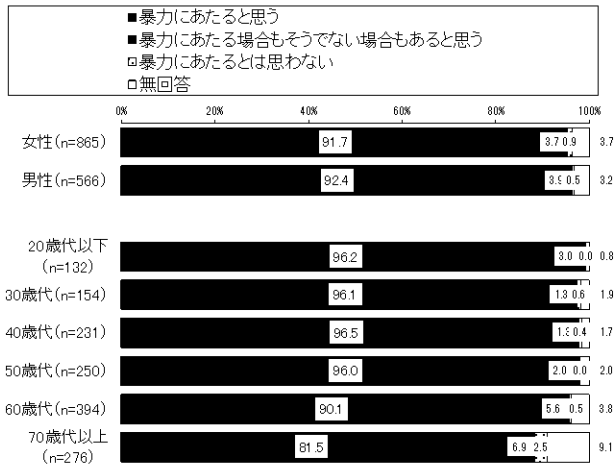
■避妊に協力しない



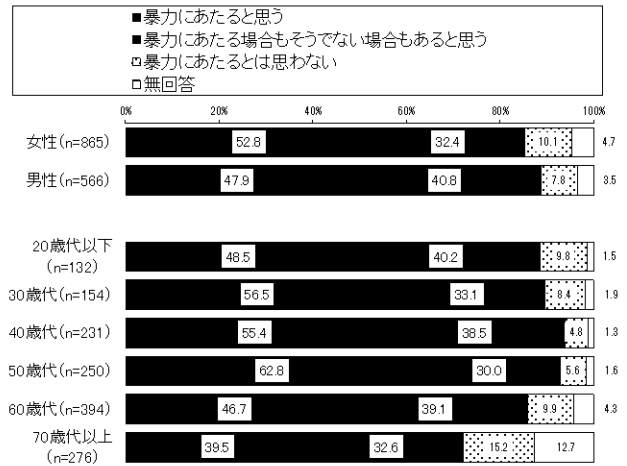
■なぐるふりをして、おどす



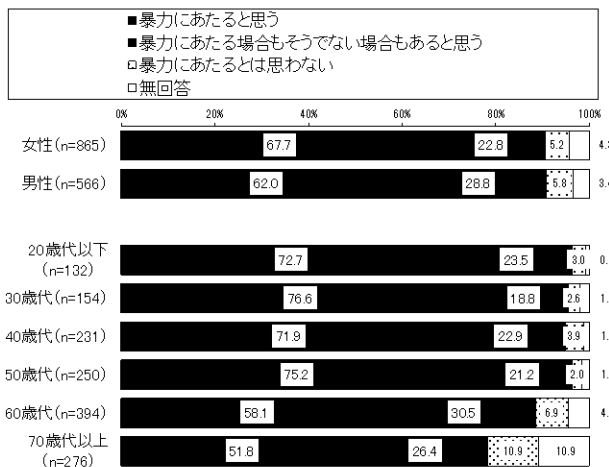
■刃物などを突き付けて、おどす



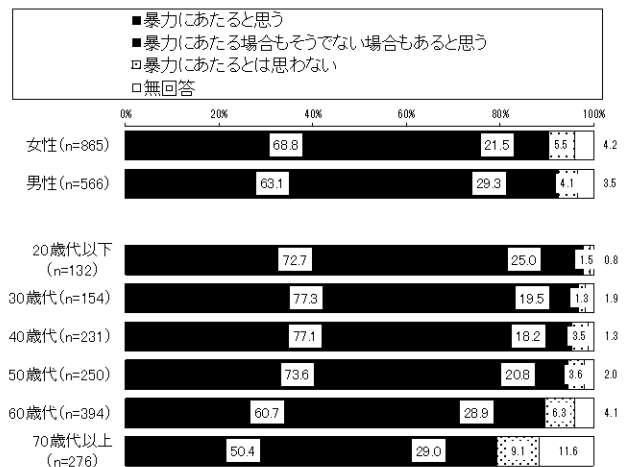
■何を言っても長時間無視し続ける



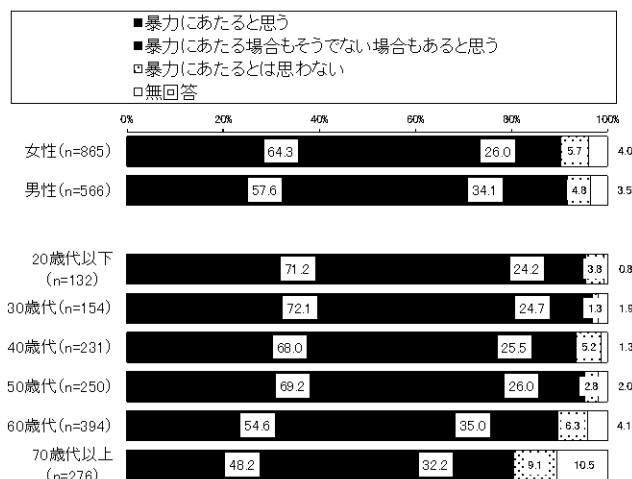
■「だれのおかげで生活できているんだ」とか、「かいしょうなし」などと言う



■必要な生活費を渡さない



■交友関係や電話を細かく監視し、行動を制限する



暴力にあたると思う行為について性別にみると、男性は女性と比べて主に「何を言っても長時間無視し続ける」、「だれのおかげで生活できているんだ」とか、「かいしょうなし」などと言う」、「必要な生活費を渡さない」、「交友関係や電話を細かく監視し、行動を制限する」の行為について「暴力にあたると思う」が少なくなっています。

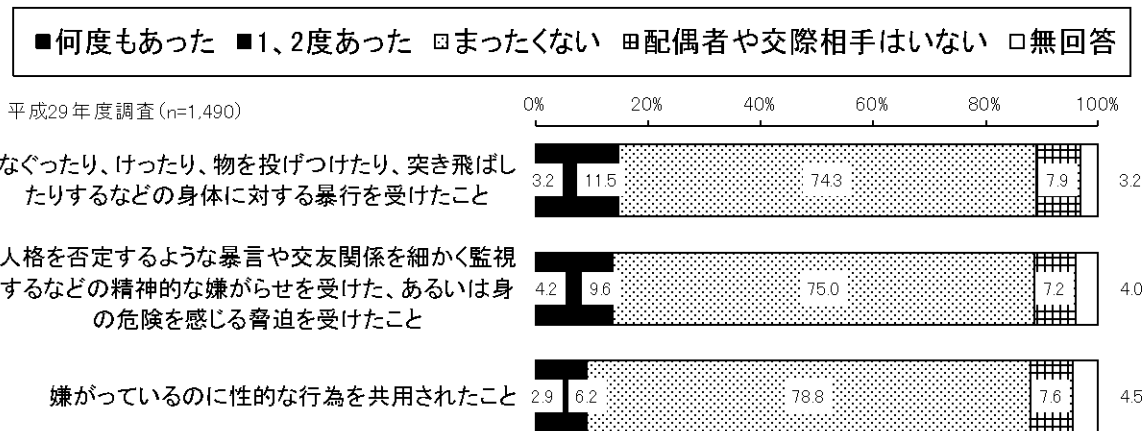
年齢別にみると、「平手でうつ」、「足でける」については40歳代や50歳代で「暴力にあたると思う」が多く、それより上や下の年齢になるほど「暴力にあたると思う」が少なくなっています。それ以外の行為については、おおむね年齢が高いほど「暴力にあたると思う」が少なくなっています。

〈考察・まとめ〉

設問の行為はすべてDVにあたるものであり、ほとんどの行為について、暴力にあたると思う人が増加してはいるものの、刃物などを突き付ける、物を投げつける、蹴るといった暴力とわかりやすい行為以外の、なぐるふり、長時間の無視、相手を貶める発言といった精神的暴力や必要な生活費を渡さない経済的暴力、行動を制限する社会的暴力については暴力と思う人が少なくなっています。

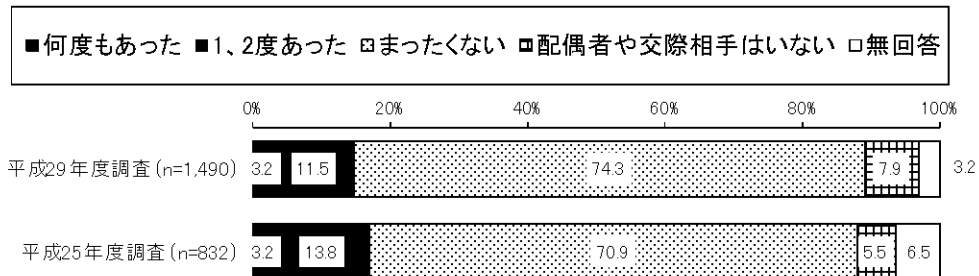
また、男性や年齢の高い人ほどこれらの行為について暴力と認識している人が少ない現状がうかがえます。

(10) 配偶者や交際相手から暴力を受けた経験

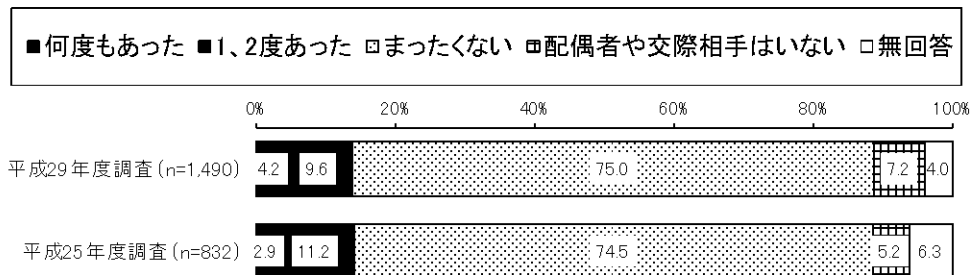


【調査年度別 配偶者や交際相手から暴力を受けた経験】

■なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けたこと

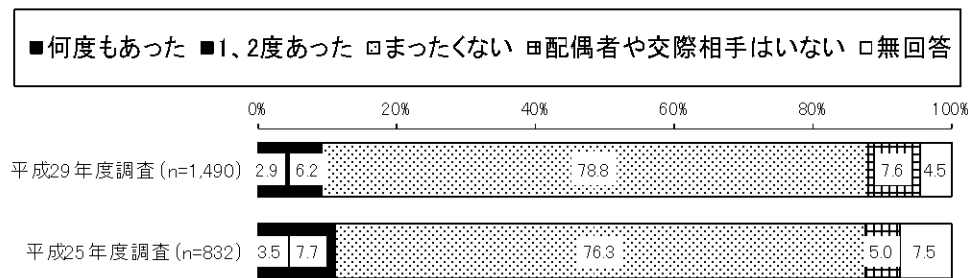


■人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは身の危険を感じる脅迫を受けたこと

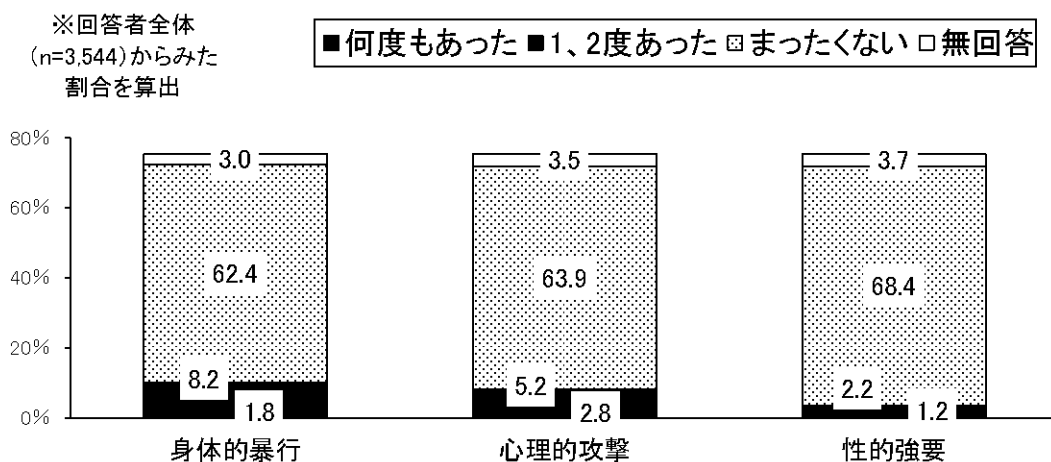


【調査年度別 配偶者や交際相手から暴力を受けた経験】

■嫌がっているのに性的な行為を強要されたこと



《国の調査結果》



国（内閣府）	
男女間における暴力に関する調査票（平成26年度調査）	
問	あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。「これまで」のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。

※国の調査では、当該設問の回答者を、結婚しているかどうかの設問で既婚、離別、死別と回答した人のみとしています（未婚と無回答の人を除いていますが）、市と比較するために、アンケートの回答者全員（3,544人）からみた割合に集計しておしています。

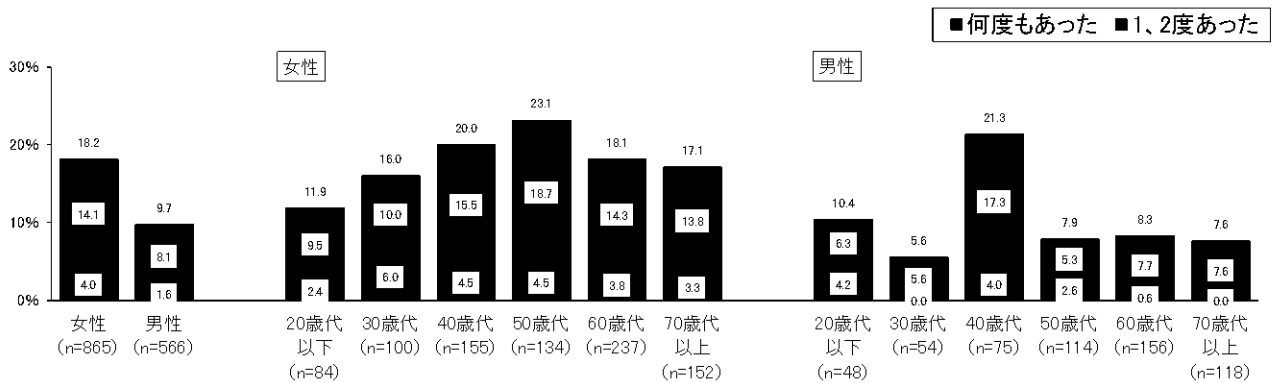
配偶者や交際相手から暴力を受けた経験についてたずねたところ、身体的な暴力を受けたことが『ある』（「何どもあった」と「1、2度あった」を合わせた割合）は14.7%、心理的な暴力を受けたことが『ある』は13.8%、性的な暴力を受けたことが『ある』は9.1%となっています。

平成25年度調査と比べると、身体的、心理的、性的暴力いずれにおいても『ある』がやや減少しています。

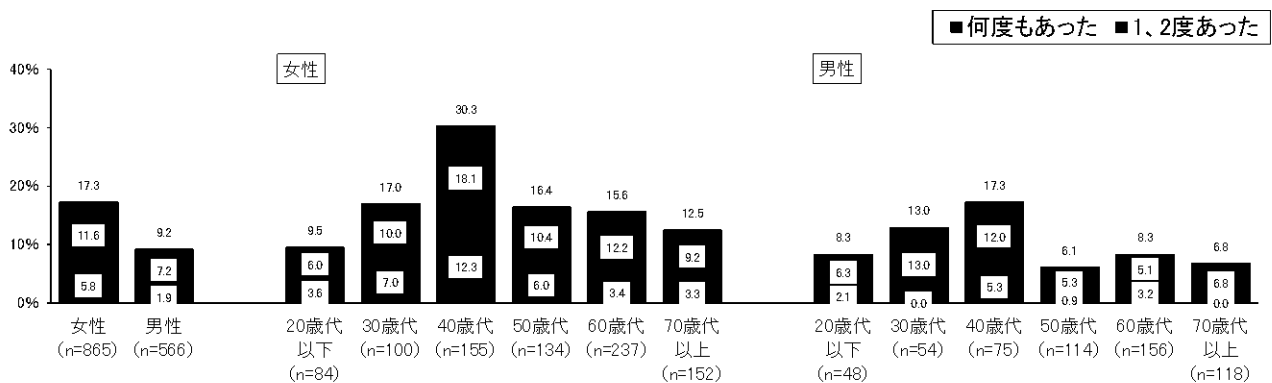
国の調査では、身体的暴行を受けたことが『あった』（「何どもあった」と「1、2度あった」を合わせた割合）は10.0%、心理的攻撃を受けたことが『あった』は8.0%、性的強要が『あった』は3.4%となっています。

【性別、性・年齢別 配偶者や交際相手から暴力を受けた経験】

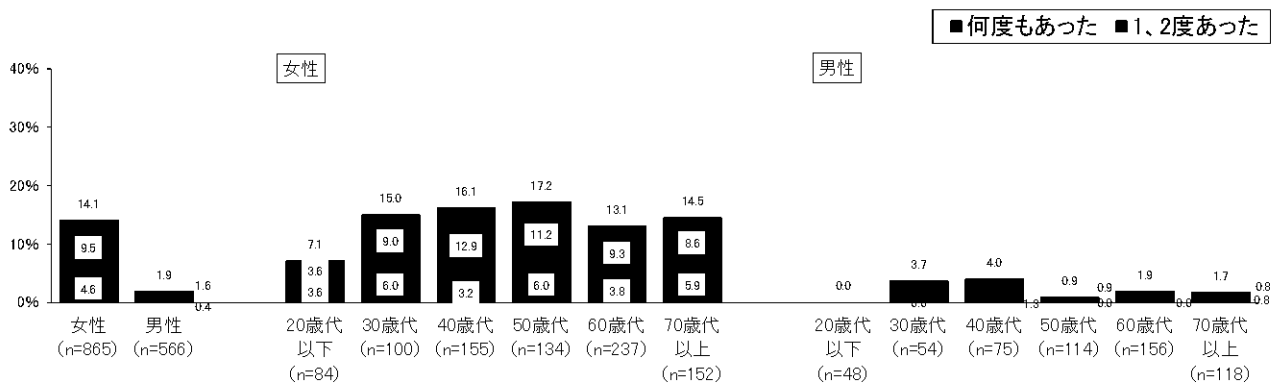
■なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けたこと



■人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは身の危険を感じる脅迫を受けたこと



■嫌がっているのに性的な行為を強要されたこと



配偶者や交際相手から暴力を受けた経験について性別にみると、身体的、心理的、性的暴力いずれにおいても女性は『ある』が男性を大きく上回っています。

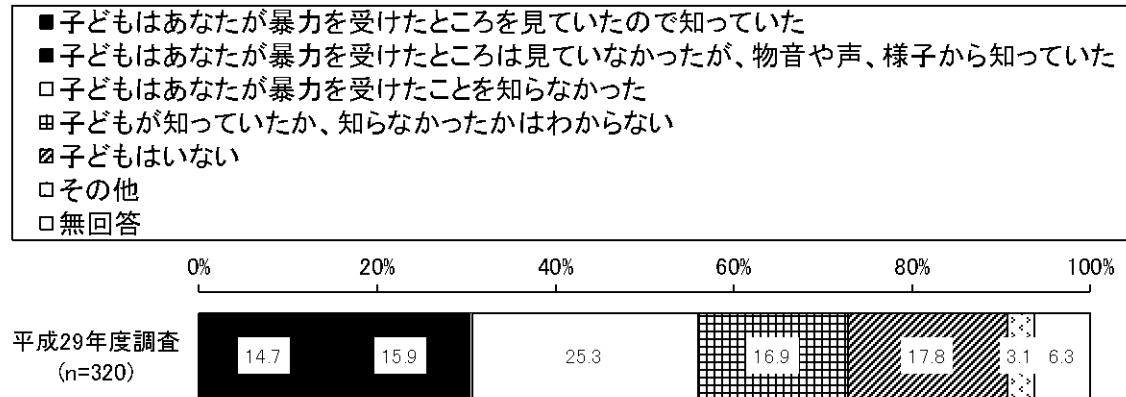
性・年齢別にみると、身体的な暴力については女性の40歳代と50歳代、男性の40歳代では『ある』が2割以上となっています。心理的な暴力については、女性の40歳代では『ある』が約3割に上っています。また、女性の40歳代と比べると少ないものの、男性の40歳代でも心理的な暴力について『ある』が約2割あります。

〈考察・まとめ〉

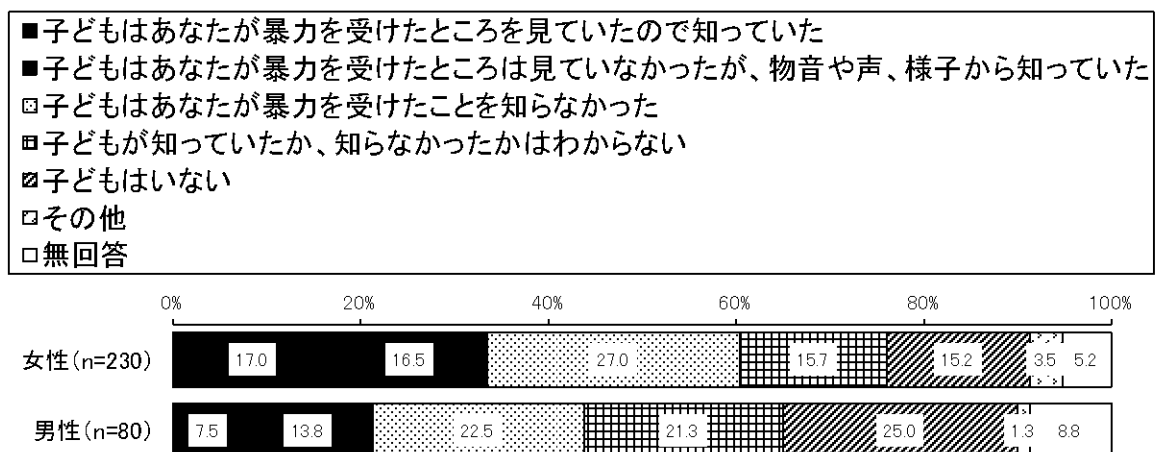
DVの被害は、わずかながら減少傾向が見られますが、国の調査と比べると多くなっています。特に女性の被害が顕著となっています。

身体的な暴力や心理的な暴力は40歳代・50歳の女性が多く受けている状況ですが、男性の40歳代についても、40歳代・50歳の女性と同じ程度の割合で身体的な暴力を受けている人がいる状況となっています。

(11) 保護者間の暴力行為を子どもは知っているか



【性別 保護者間の暴力行為を子どもは知っているか】



DVの被害を受けたことがある人に、保護者間の暴力行為を子どもは知っているかたずねたところ、「子どもはあなたが暴力を受けたところを見ていたので知っていた」は14.7%となっています。また、『知っていた』（「子どもはあなたが暴力を受けたところを見ていたので知っていた」と「子どもはあなたが暴力を受けたところは見えていなかったが、物音や声、様子から知っていた」を合わせた割合）は30.6%となっています。

性別にみると、女性は男性と比べて『知っていた』が多くなっています。

〈考察・まとめ〉

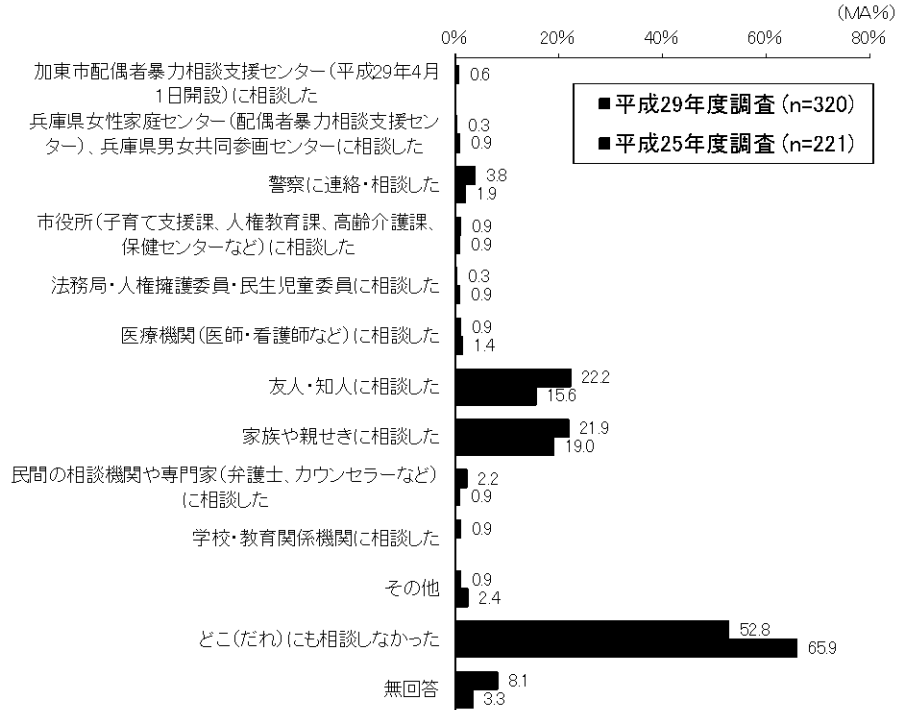
子どもが同居する家庭における配偶者への暴力は児童虐待にあたりますが、目の前でそのような行為が行われた割合は1割あまりと少なくない状況となっています。また、目の前ではないものの、家庭内で暴力が行われたことを含めると、DV被害を受けた人のうち、その子どもに心理的な影響を与えたケースが約3割に上っている状況となっています。

また、母親がDVを受けている場合は、父親がDVを受けている場合より、子どもが知っていることが多い状況がうかがえます。

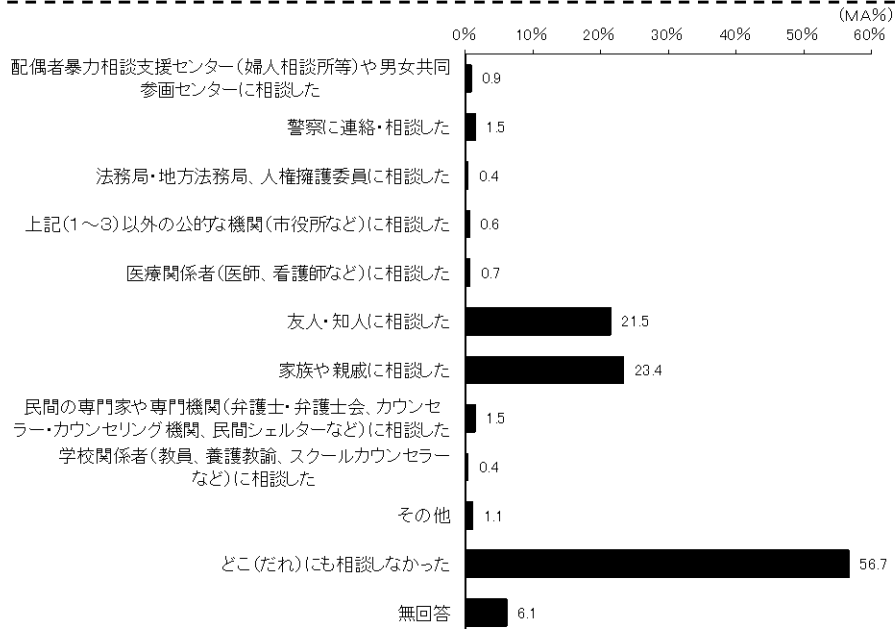
(12) 配偶者や交際相手から暴力を受けたときの相談相手

※前回調査には「加東市配偶者暴力相談センターに相談した」「学校・教育関係機関に相談した」はありません。

※「法務局・人権擁護委員・民生児童委員に相談した」は、前回調査では「法務局・人権擁護委員に相談した」となっています。



《国の調査結果》

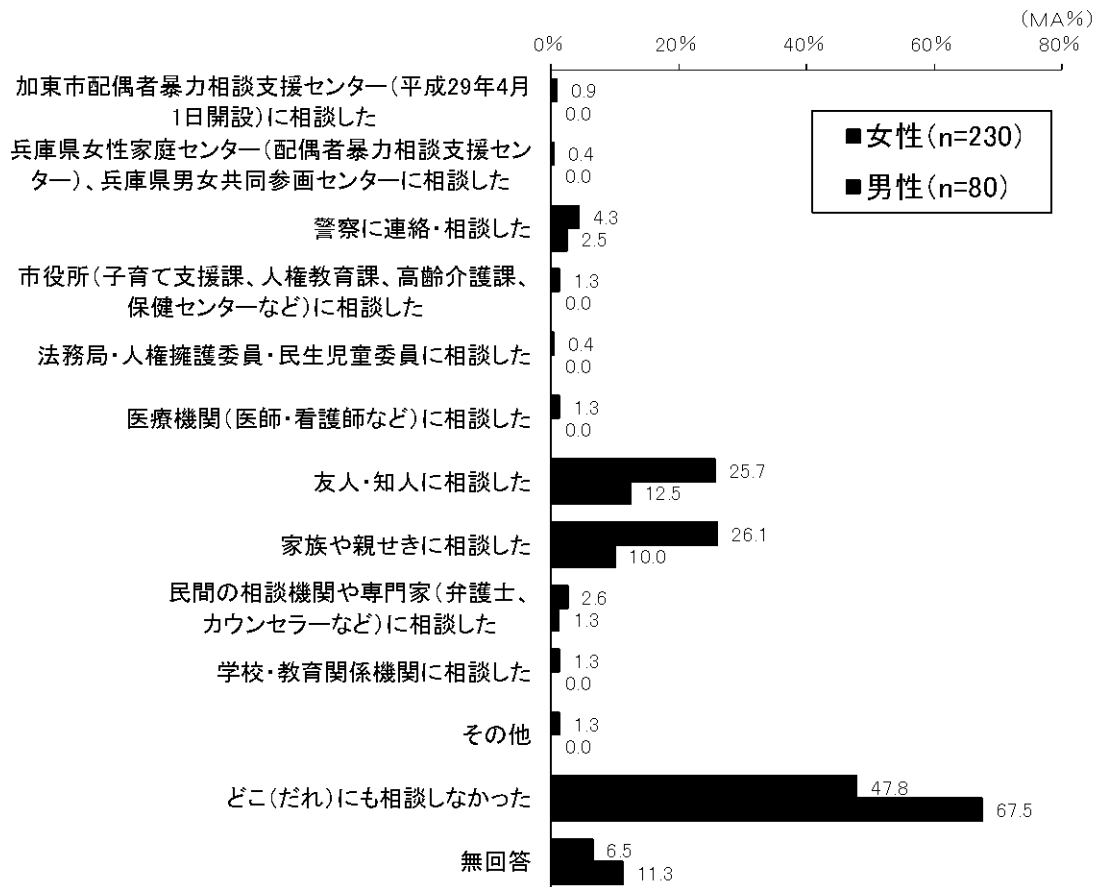


国(内閣府)

男女間における暴力に関する調査票(平成26年度調査)

1つでも「1, 2度あった」, 「何度もあった」と答えた方にお聞きます。
あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

【性別 配偶者や交際相手から暴力を受けたときの相談相手】



DVの被害を受けたことがある人に、暴力を受けたとき、だれかに相談したりしたかたずねたところ、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が52.8%と最も多く、次いで「友人・知人に相談した」が22.2%、「家族や親せきに相談した」が21.9%などとなっています。

平成25年度調査と比べると、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が減少しています。

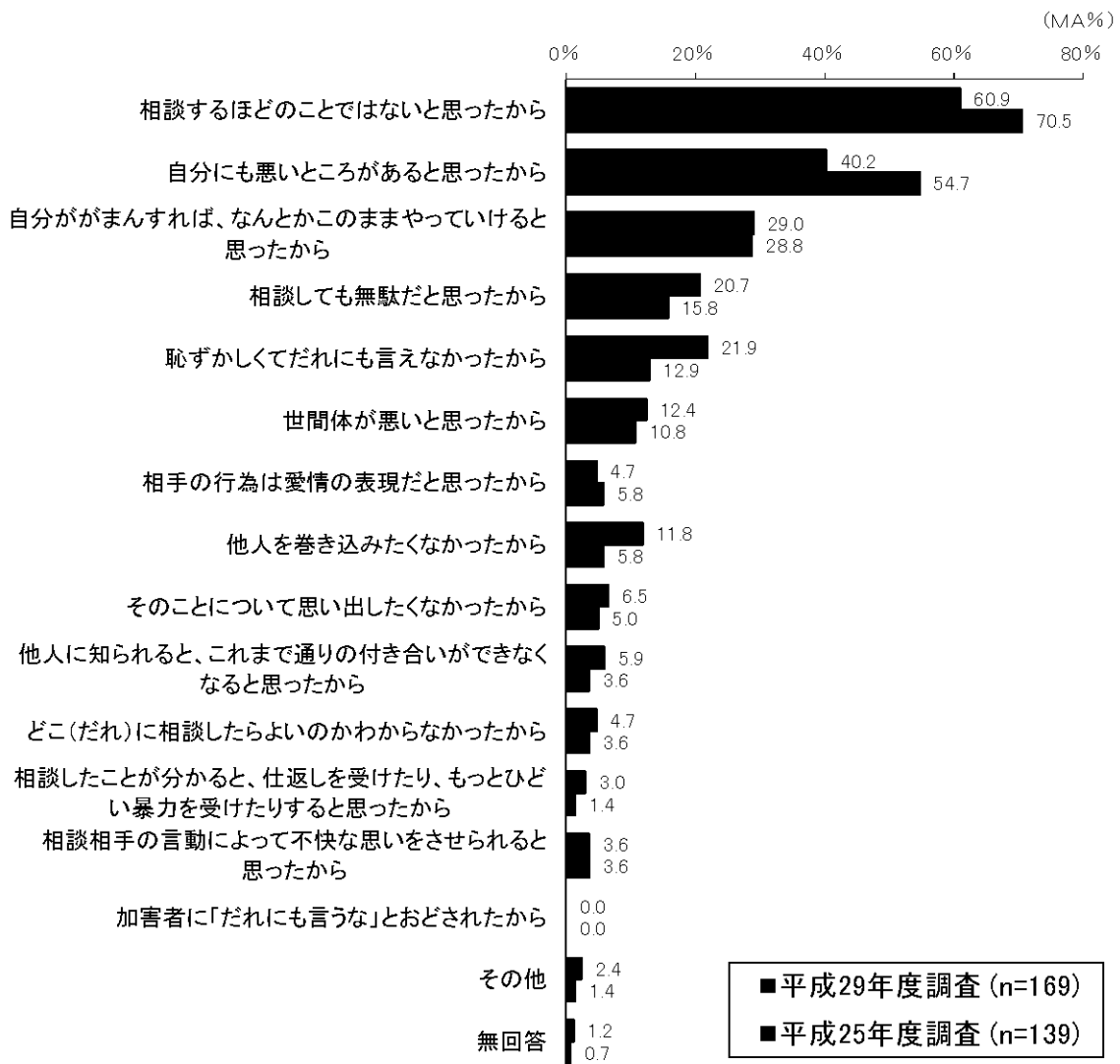
国の調査では、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が最も多く、次いで「家族や親せきに相談した」、「友人・知人に相談した」などとなっています。

性別にみると、男性は女性と比べて「どこ(だれ)にも相談しなかった」が多くなっています。

〈考察・まとめ〉

DVの被害を受けても、だれにも相談しないという人が減少しているものの、依然として半数を超えています。特に男性は相談せずに、一人で抱え込んでいる人が多いことがうかがえます。

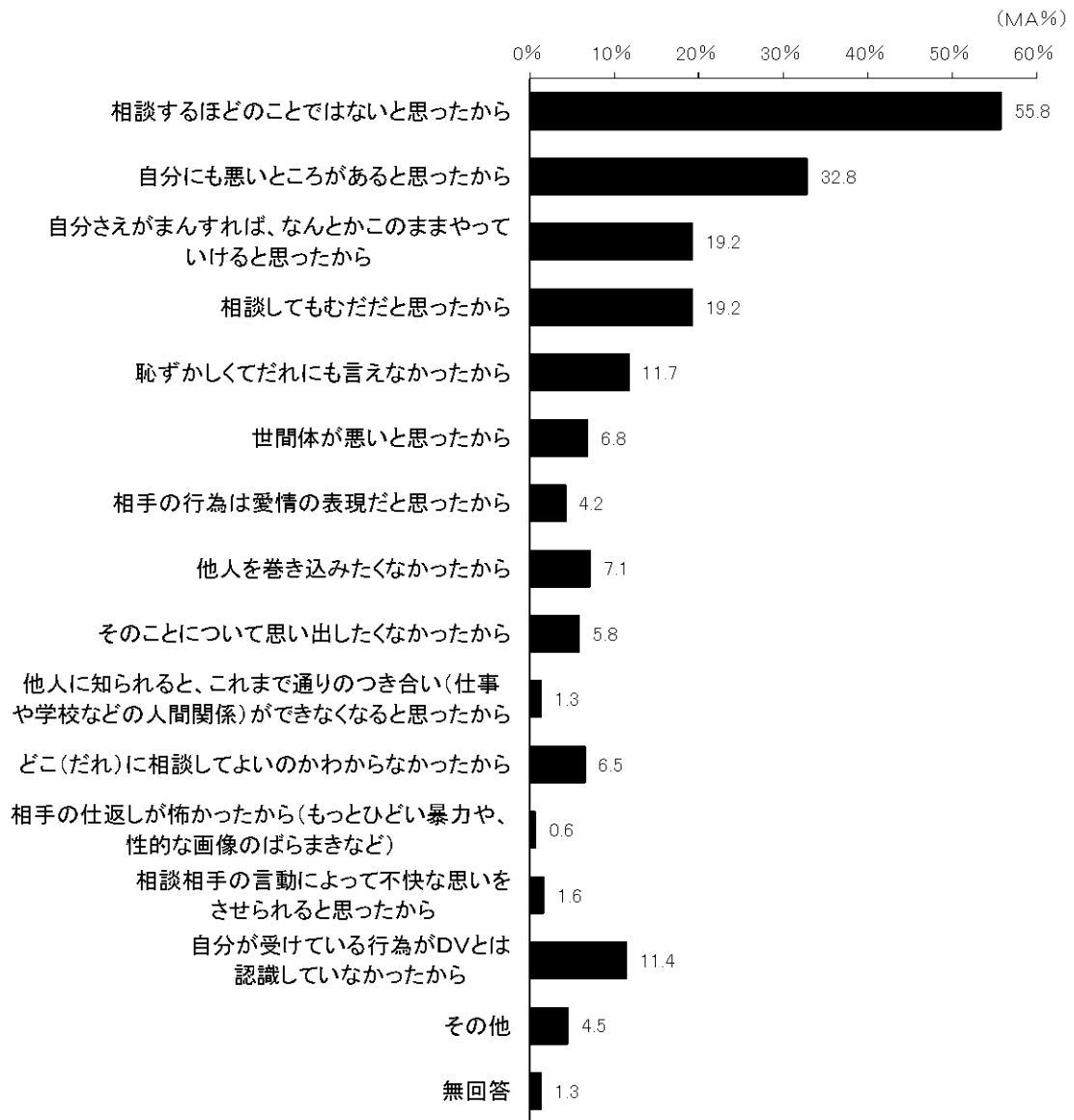
(13) 配偶者や交際相手から暴力を受けたことを相談しなかった理由



DVの被害を誰にも相談しなかった人に、その理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が60.9%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が40.2%、「自分ががまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が29.0%などとなっています。

平成25年度調査と比べると、回答の傾向はおおむね同様となっていますが、主に「相談するほどのことではないと思ったから」と「自分にも悪いところがあると思ったから」については減少し、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が増加しています。

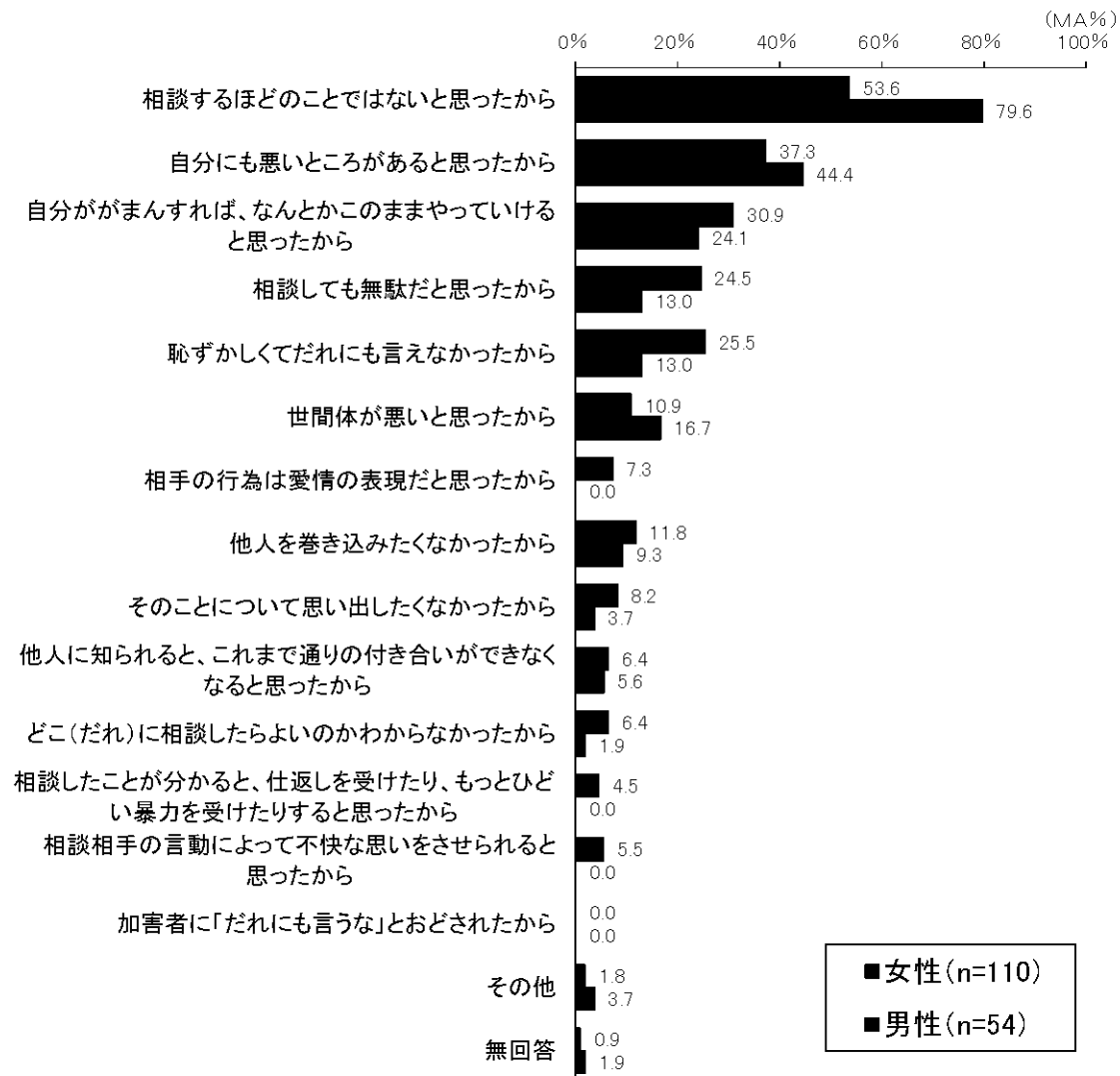
《国の調査結果》



国（内閣府）	
男女間における暴力に関する調査票（平成26年度調査）	
問	どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

国の調査では、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」などとなっています。

【性別 配偶者や交際相手から暴力を受けたことを相談しなかった理由】



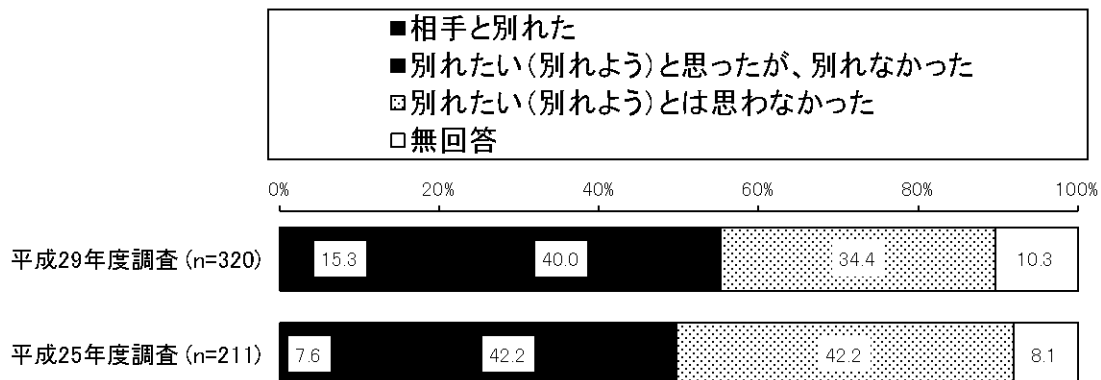
DVの被害を誰にも相談しなかった人の理由を性別にみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多くなっています。

また、女性は男性と比べて主に「相談しても無駄だと思ったから」、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が多く、男性は女性と比べて主に「相談するほどのことではないと思ったから」が多くなっています。

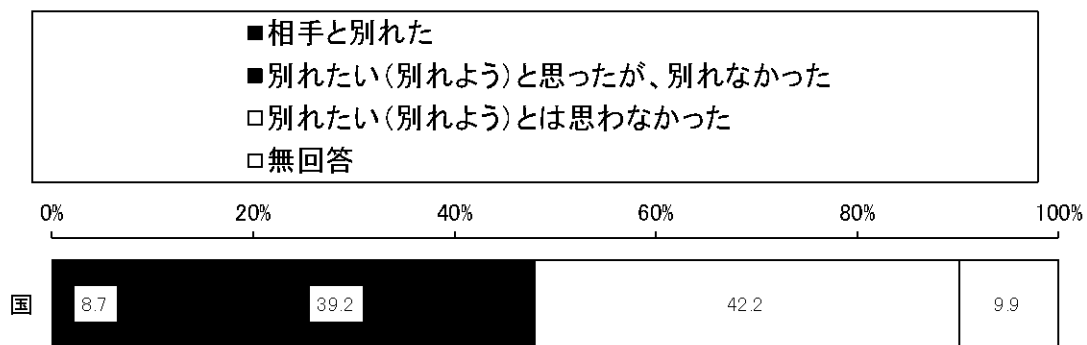
〈考察・まとめ〉

国の調査と同様に、DVを受けても相談しなかったのは、相談するほどでもないとの理由や自分にも悪いところがあると思ったからという理由が多くなっています。

(14) 配偶者や交際相手から最初に暴力を受けたときの対応とその理由



《国の調査結果》



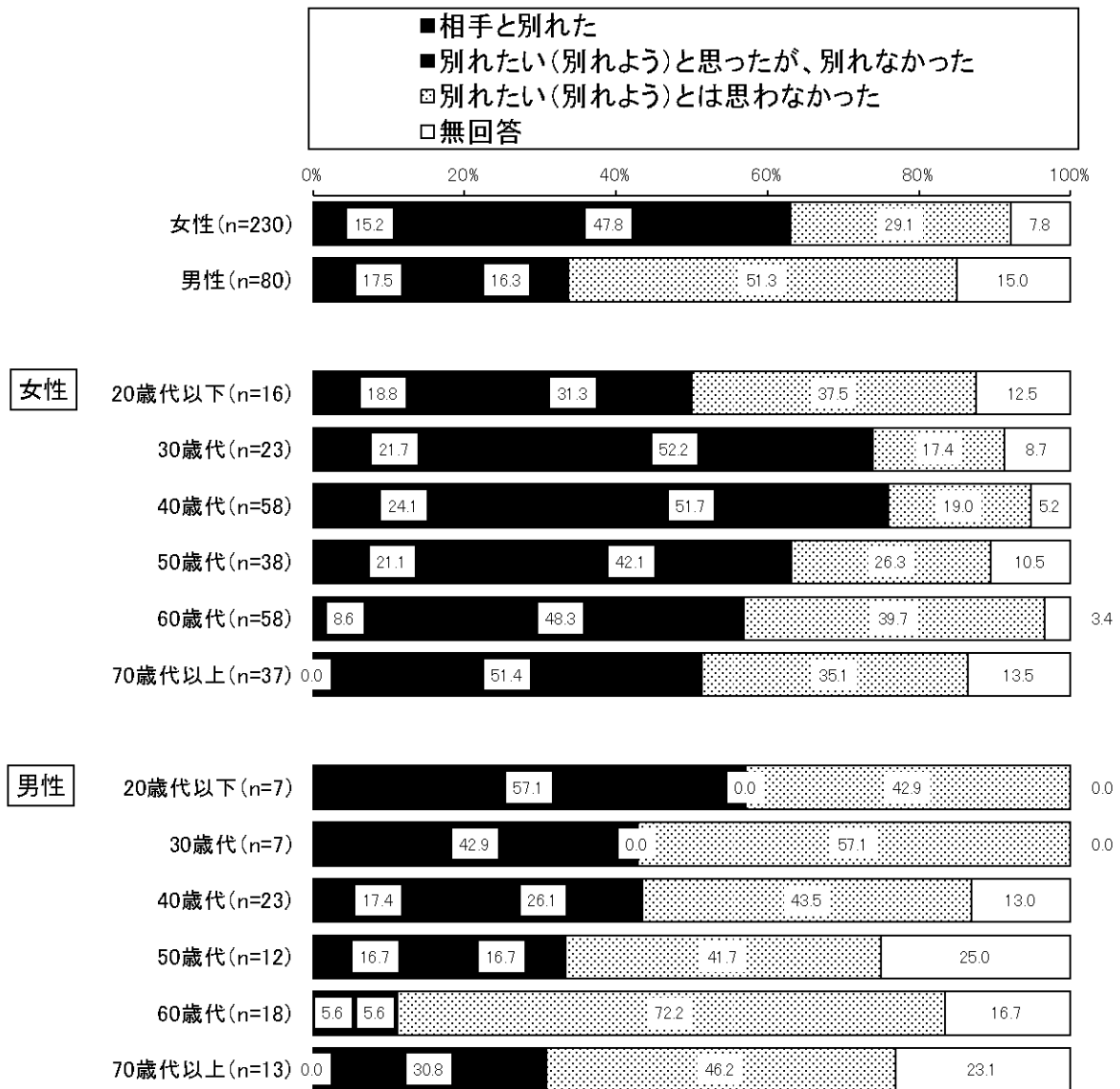
国（内閣府）	
男女間における暴力に関する調査票（平成26年度調査）	
問	1つでも「1，2度あった」，「何度もあった」と答えた方にお聞きします。 あなたは，あなたの配偶者からそのような行為を受けたとき，どうしましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

DVの被害を受けたことがある人に、最初にDVを受けたときに相手との関係をどうしたかたずねたところ、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が40.0%と最も多く、次いで「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が34.4%、「相手と別れた」が15.3%となっています。

平成25年度調査と比べると、「相手と別れた」が増加しています。

国の調査では、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」がそれぞれ約4割となっています。

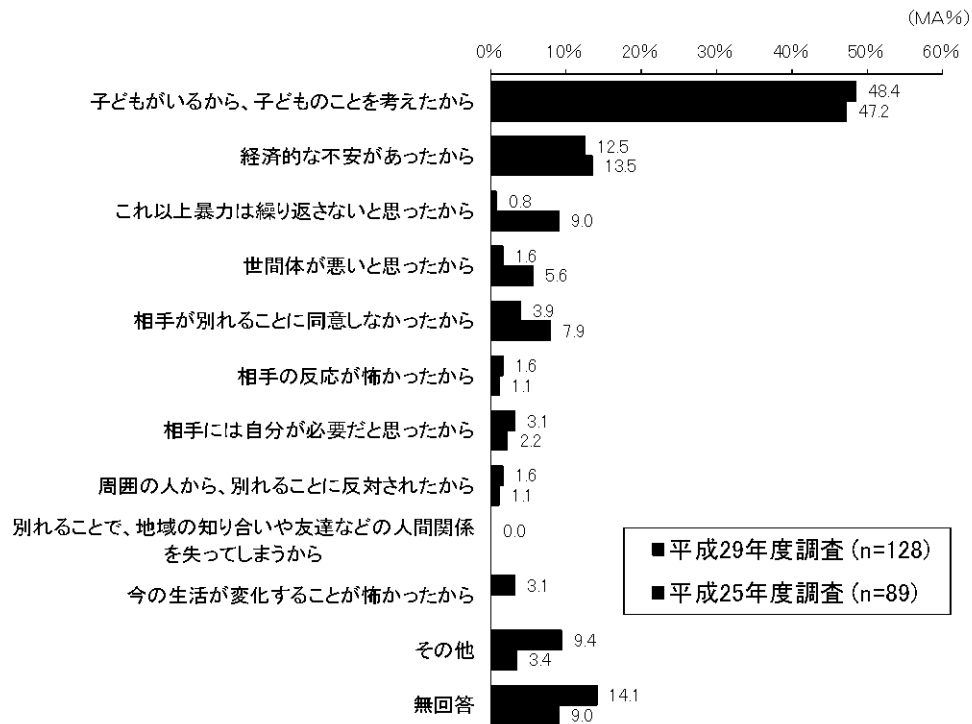
【性別、性・年齢別 配偶者や交際相手から最初に暴力を受けたときの対応】



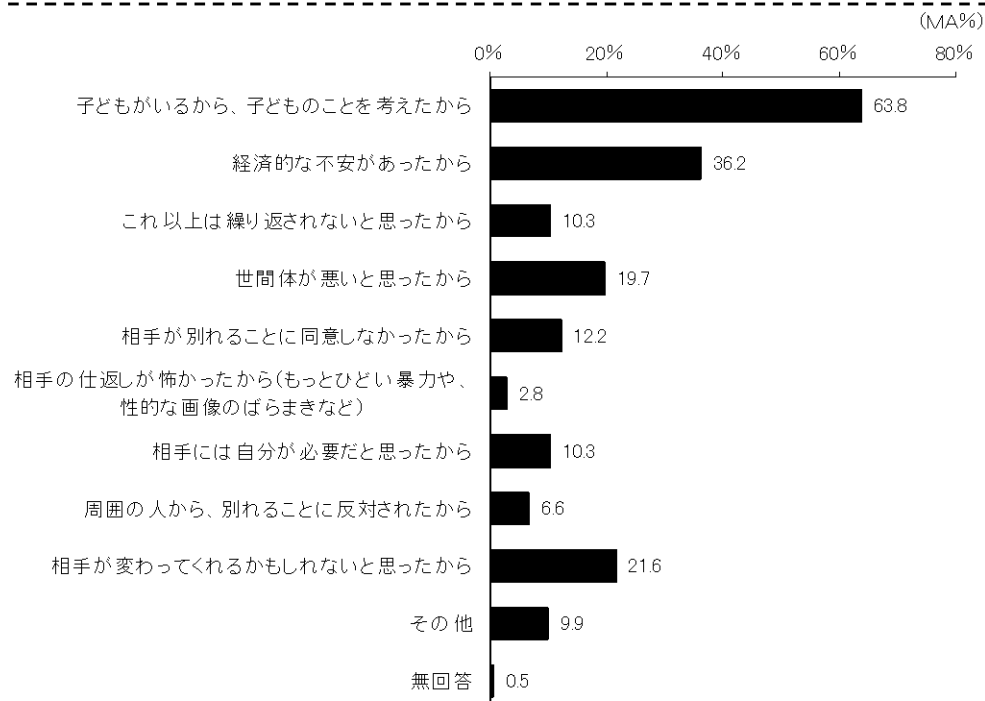
DVの被害を受けたことがある人に、最初にDVを受けたときに相手との関係をどうしたかを性別にみると、女性は男性と比べて「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が多くなっています。一方男性は女性と比べて「相手と別れた」と「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が多くなっています。

性・年齢別にみると、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」については女性の30歳代、40歳代に多く、5割を超えています。「相手と別れた」については30歳代以下の男性に多く、4割を超えています。

※前回調査では「別れることで、地域の知り合いや友達などの人間関係を失ってしまうから」と「今の生活が変化することが怖かったから」はありません。



《国の調査結果》

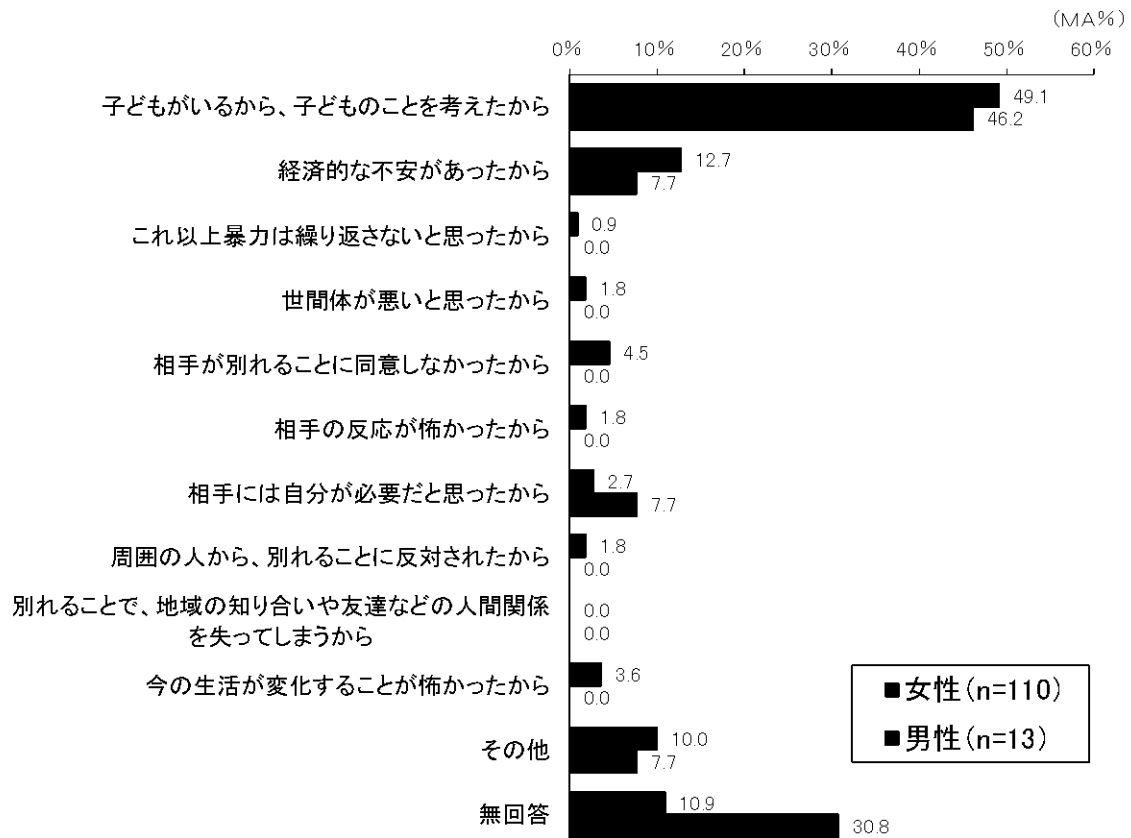


国（内閣府）

男女間における暴力に関する調査票（平成26年度調査）

問 「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と答えた方にお聞きします
あなたが、相手と別れなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

【性別 配偶者や交際相手から暴力を最初に受けたとき、相手と別れなかった理由】



DVを最初に受けたときに相手と別れようと思ったが別れなかった人に、その理由をたずねたところ、「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が48.4%と他の回答項目を大きく上回り、最も多くなっています。

平成25年度調査と比べると、おおむね同様の回答の傾向となっています。

国の調査でも、「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が最も多くなっています。

性別にみても、男女ともに「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が最も多くなっています。

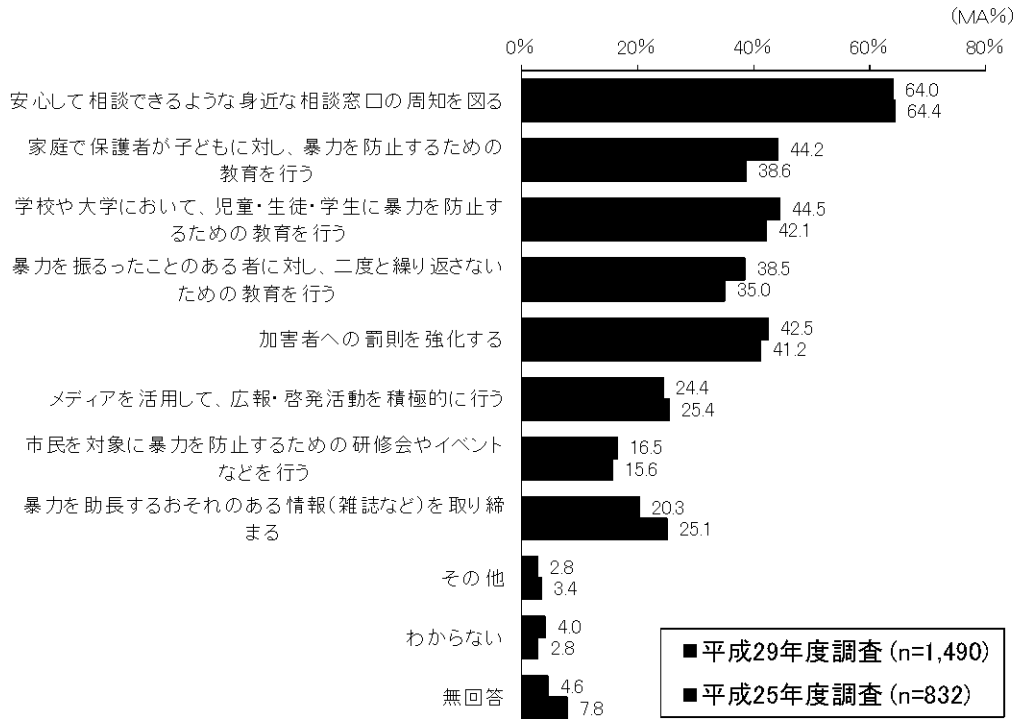
〈考察・まとめ〉

DVを受けたときの最初の対応としては、別れたいと思ったものの別れなかった人が4割と少ない状況であり、特に女性は不本意ながら別れなかった人が多くなっています。また、別れなかったのは、男女ともに子どものことを考えた対応であることがうかがえます。

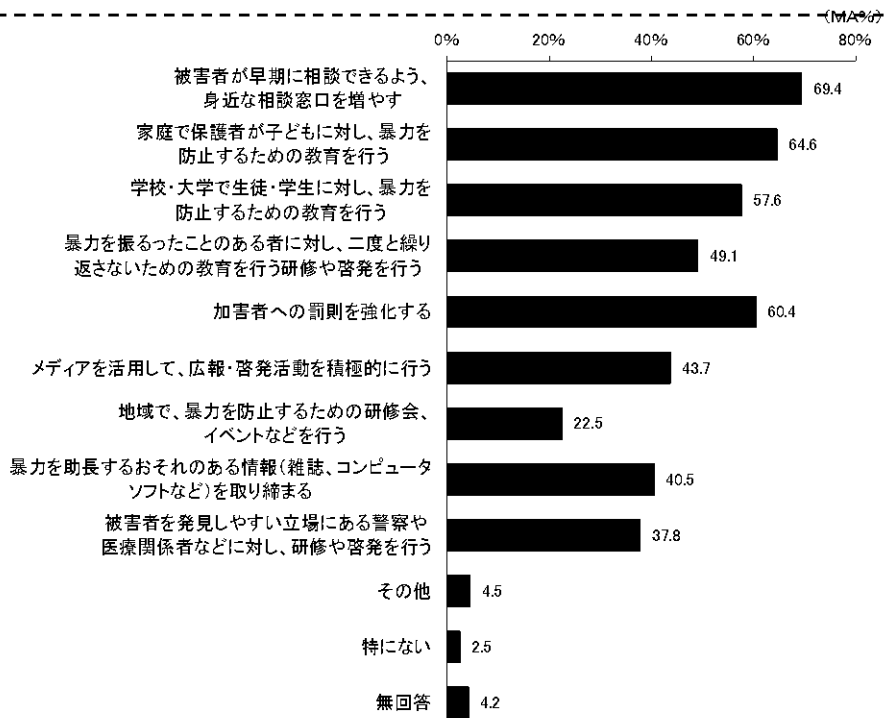
(15) 配偶者や交際相手との間における暴力を防止するために必要なこと

※「安心して相談できるような身近な相談窓口の周知を図る」は、前回調査では「安心して相談できるような身近な相談窓口を増やす」となっています。

※「わからない」は、前回調査では「特になし」となっています。



《国の調査結果》

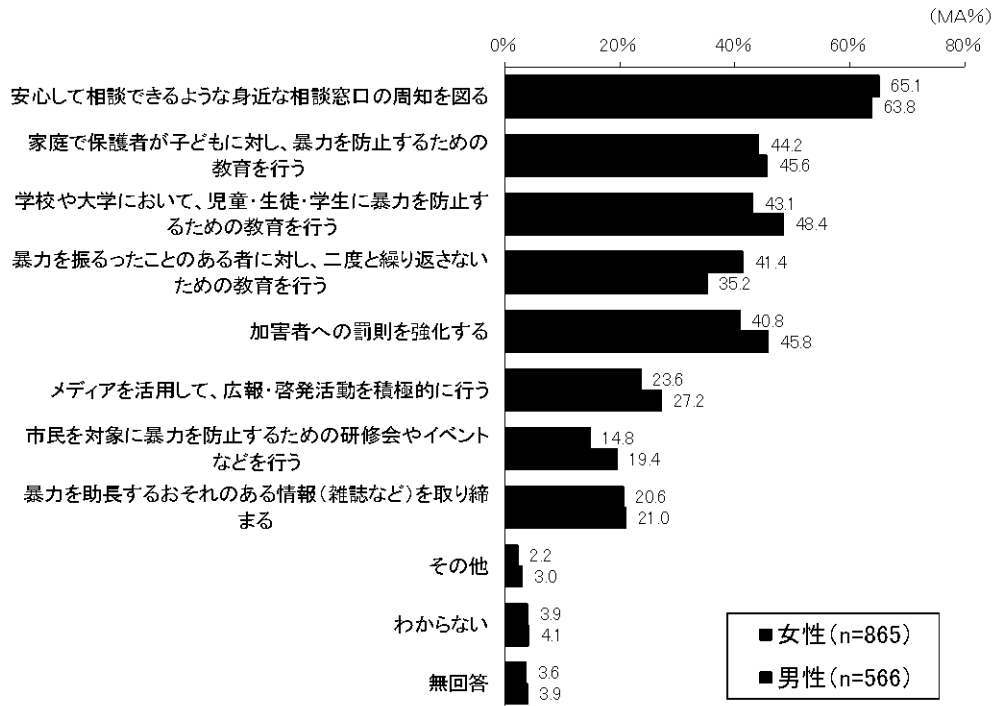


国（内閣府）

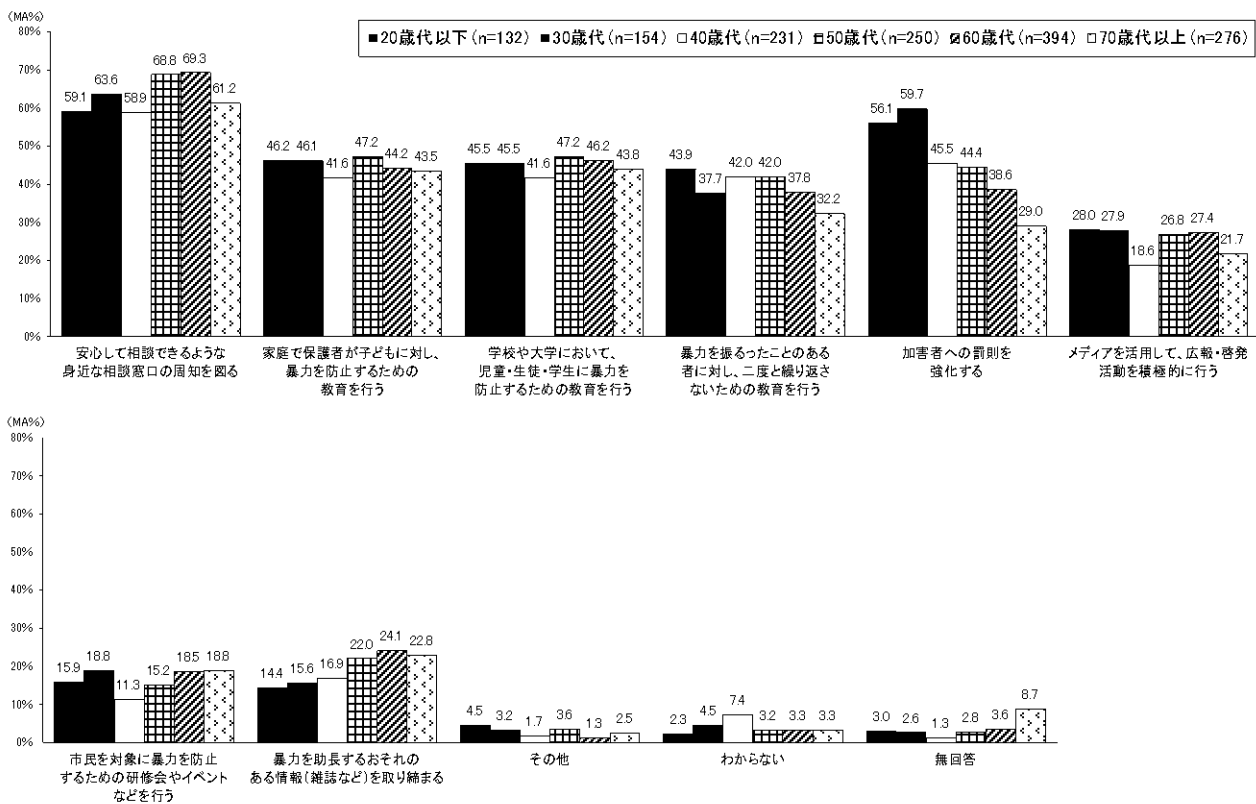
男女間における暴力に関する調査票（平成26年度調査）

問 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

【性別 配偶者や交際相手との間における暴力を防止するために必要なこと】



【年齢別 配偶者や交際相手との間における暴力を防止するために必要なこと】



配偶者や交際相手との間における暴力を防止するために必要なことをたずねたところ、「安心して相談できるような身近な相談窓口の周知を図る」が64.0%と最も多く、次いで「学校や大学において、児童・生徒・学生に暴力を防止するための教育を行う」が44.5%、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が44.2%などとなっています。

平成25年度調査と比べると、おおむね同様の回答の傾向となっています。

国の調査では、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が最も多く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」、「加害者への罰則を強化する」などとなっています。

性別にみると、男女で大きな違いはみられません。

年齢別にみると、「加害者への罰則を強化する」については、年齢が低いほど割合が多くなっています。

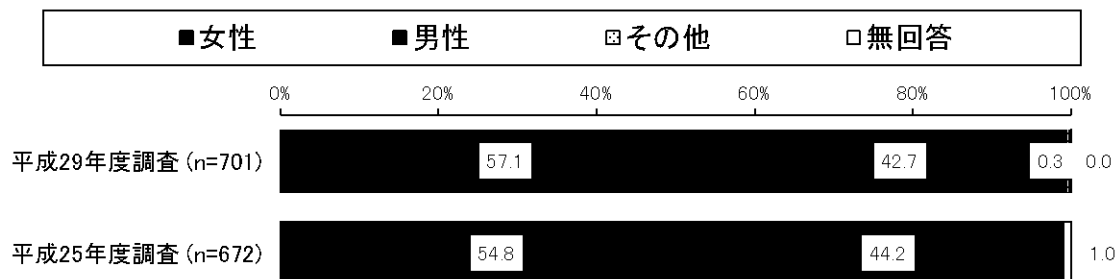
〈考察・まとめ〉

DV防止に向けては、国の調査と同様に身近な相談窓口に関する回答が最も多く、まずはDVが発生したときの早期対応が重要であると考え人が多いことがうかがえます。次いで、家庭や教育現場での子どもに対する教育を挙げる回答が多くなっていることから、将来の社会を担う子どもたちへの中長期的な視点に立った、DVを未然防止するための取り組みが必要と考えられていることがうかがえます。

II 調査結果（高校生）

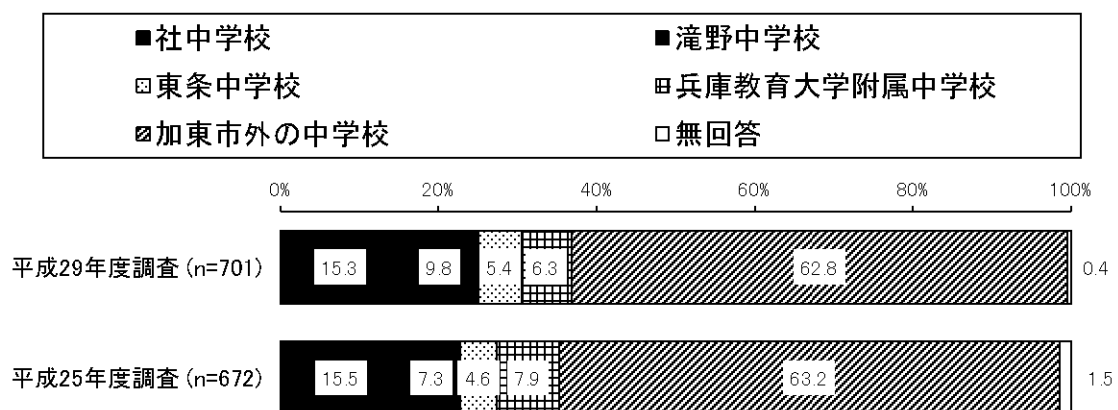
1. 回答者の属性

（1）性別

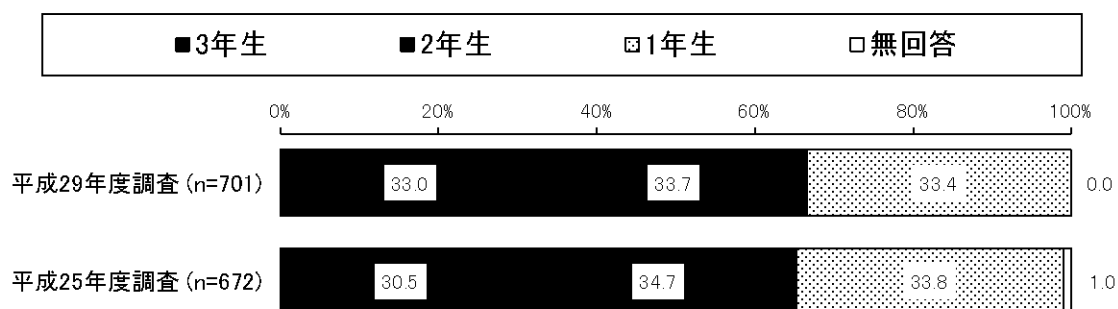


※前回調査では「その他」なし

（2）出身中学校

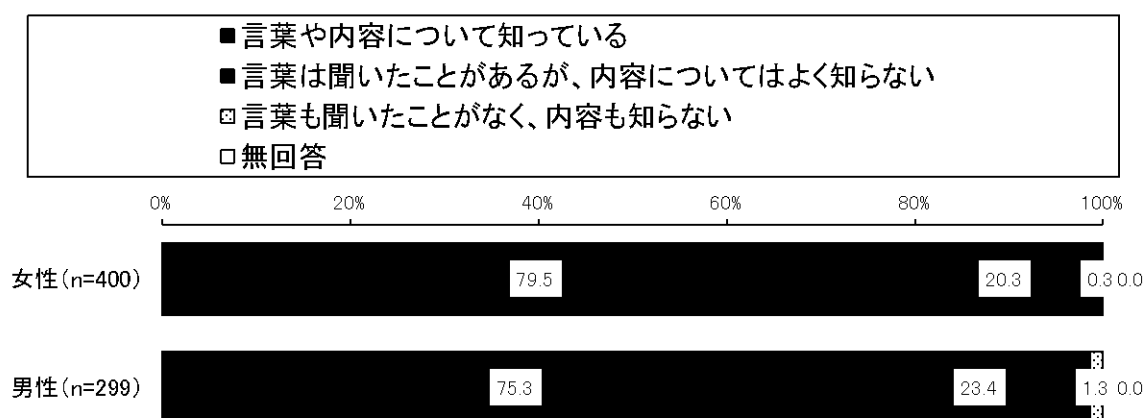
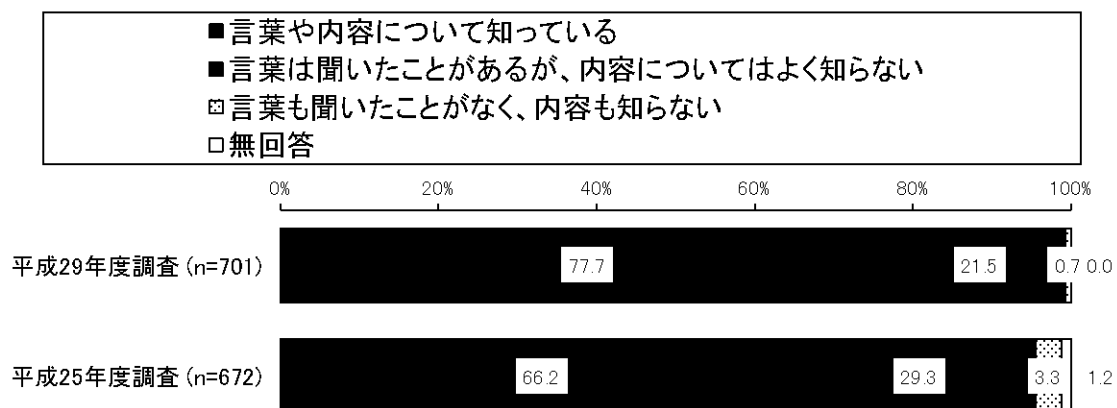


（3）学年



2. デートDVなどについて

(1) 「DV」の認知度



「DV」の認知状況についてたずねたところ、「言葉や内容について知っている」は77.7%となっています。

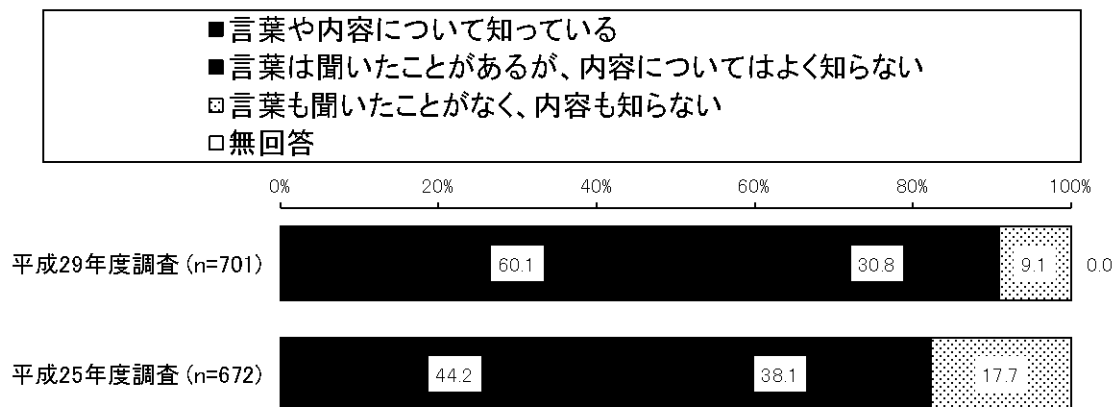
平成25年度調査と比べると、「言葉や内容について知っている」は増加しています。

性別にみると、男性は女性と比べて「言葉や内容について知っている」が少なくなっています。

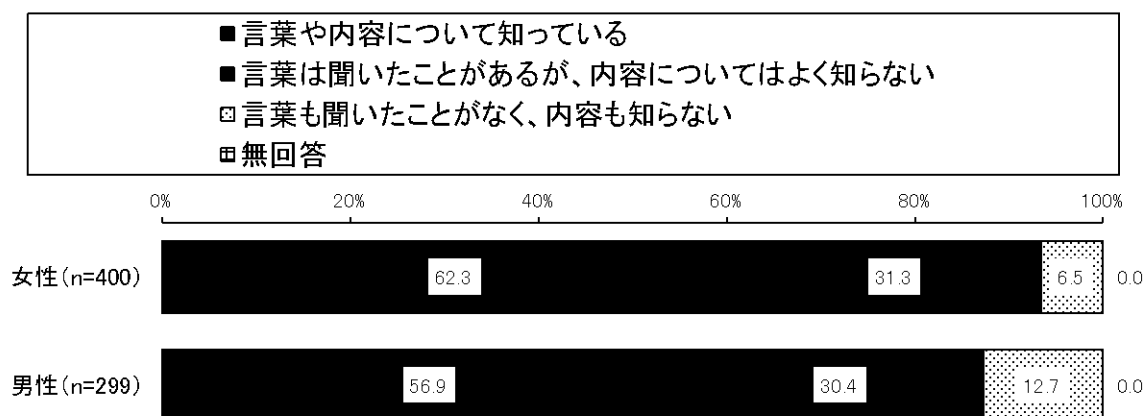
〈考察・まとめ〉

DVの認知度（内容も知っている）は増加していますが、男性は女性と比べて認知度が低くなっています。

(2) 「デートDV」の認知度



【性別 「デートDV」の認知度】



「デートDV」の認知状況についてたずねたところ、「言葉や内容について知っている」は60.1%となっています。

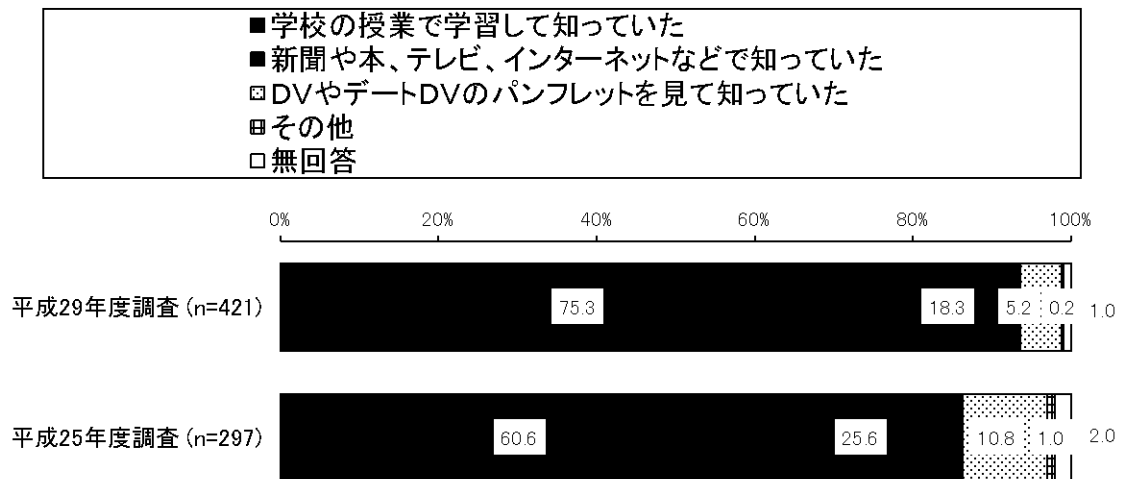
平成25年度調査と比べると、「言葉や内容について知っている」は増加しています。

性別にみると、男性は女性と比べて「言葉や内容について知っている」が少なくなっています。

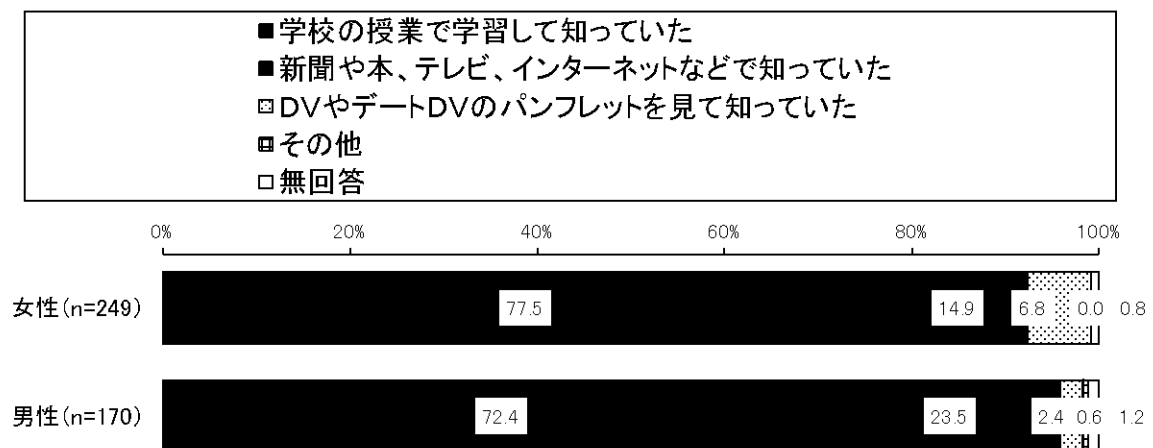
〈考察・まとめ〉

デートDVの認知度（内容も知っている）は増加していますが、DVの認知度と比べてデートDVのほうが現在の自身の問題になりやすいにもかかわらず、認知度が低くなっています。
また、男性は女性と比べて認知度が低くなっています。

(3) 「デートDV」をどこで知ったか



【性別 「デートDV」をどこで知ったか】



デートDVの言葉も内容も知っている人に、言葉や内容をどこで知ったかたずねたところ、「学校の授業で学習して知っていた」が75.3%と最も多くなっています。

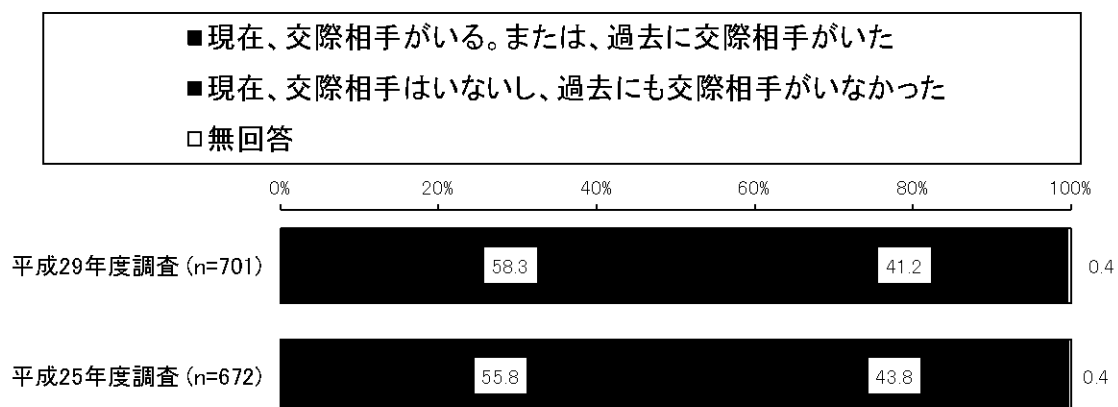
平成25年度調査と比べると、「学校の授業で学習して知っていた」が増加しています。

性別にみると、男女ともに「学校の授業で学習して知っていた」が7割を超えています。また、女性は男性と比べて「学校の授業で学習して知っていた」が多く、男性は女性と比べて「新聞や本、テレビ、インターネットなどで知っていた」が多くなっています。

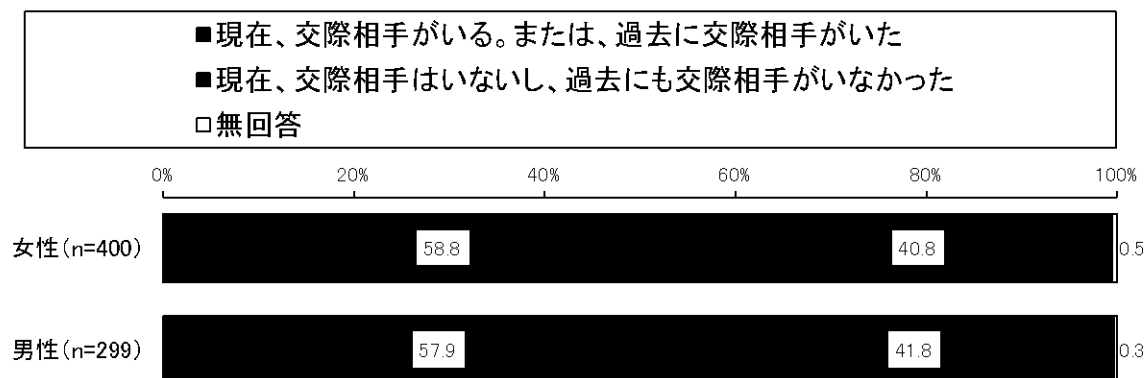
〈考察・まとめ〉

学校でのデートDVについての教育によって、認知度が向上していることがうかがえます。

(4) 交際相手の有無、出会ったきっかけ



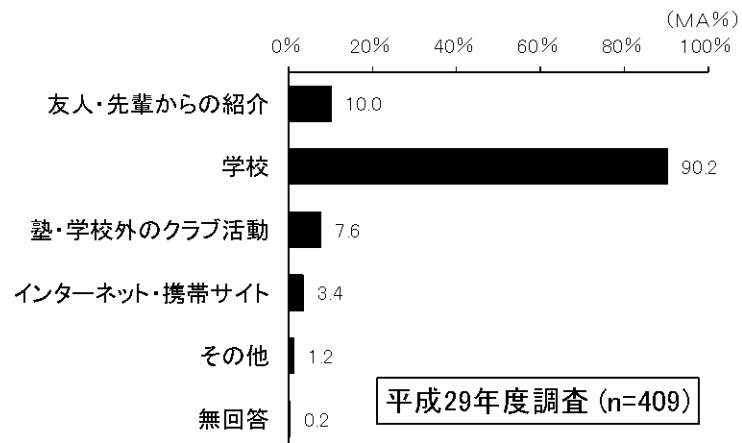
【性別 交際相手の有無】



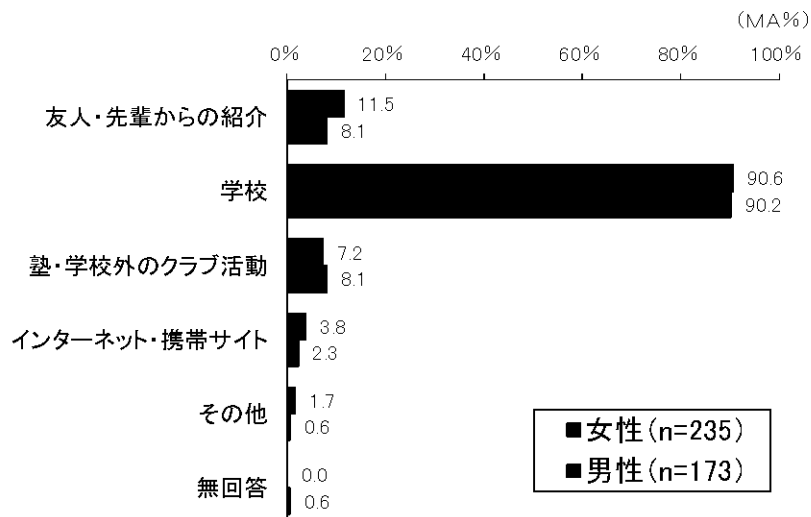
現在の交際相手の有無をたずねたところ、「現在、交際相手がいる。または、過去に交際相手があった」が58.3%、「現在、交際相手はいないし、過去にも交際相手がいなかった」が41.2%となっています。

平成25年度調査と比べると、「現在、交際相手がいる。または、過去に交際相手があった」がやや増加しています。

性別にみると、男女で大きな違いはみられません。



【性別 交際相手と出会ったきっかけ】

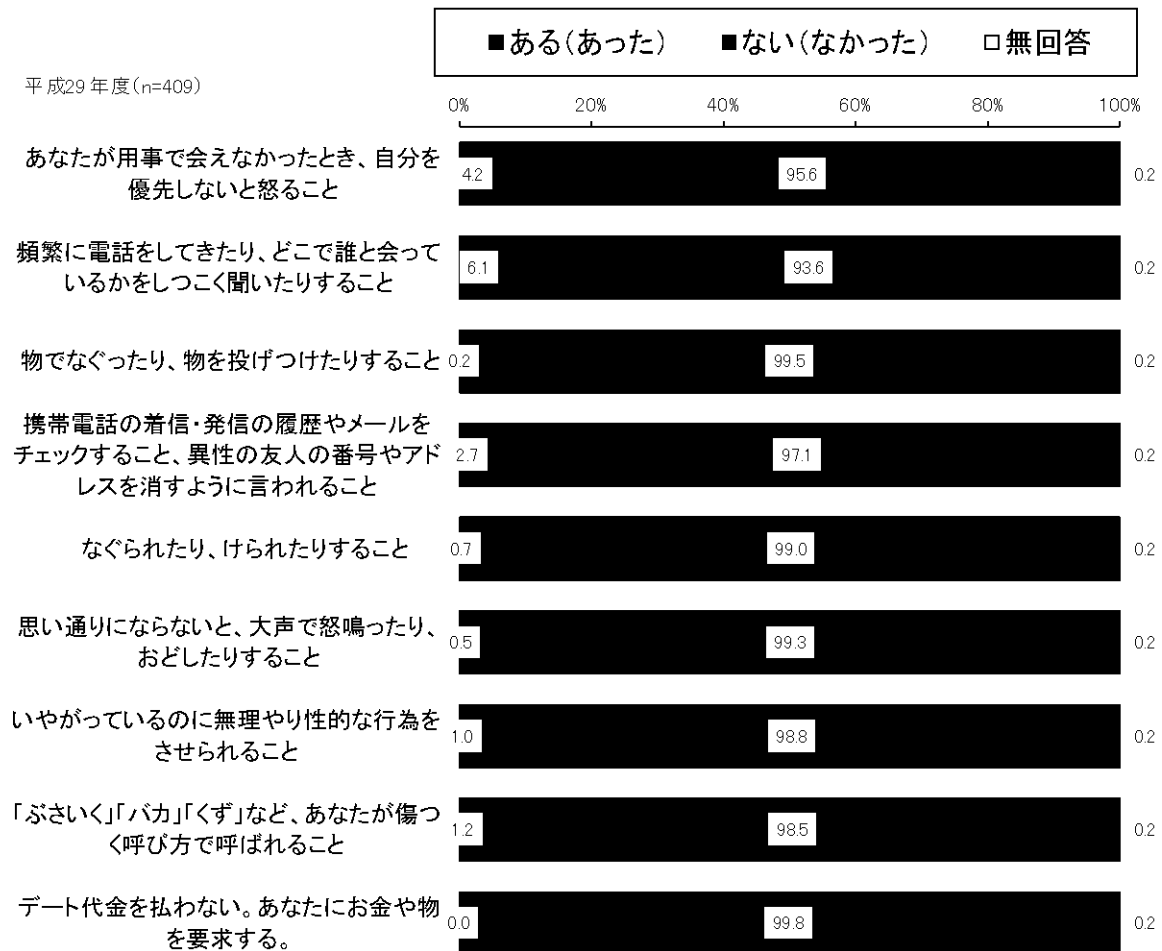


交際相手がいる、またはいたことがある人に、交際相手と出会ったきっかけをたずねたところ、「学校」が90.2%と、他の回答項目を大きく上回り最も多くなっています。
性別にみると、男女で大きな違いはみられません。

〈考察・まとめ〉

交際相手がいるまたはいたことがある人は約6割で、学校内の相手がほとんどとなっています。

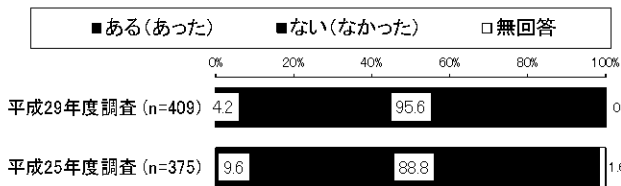
（５）交際相手から暴力行為を受けた経験



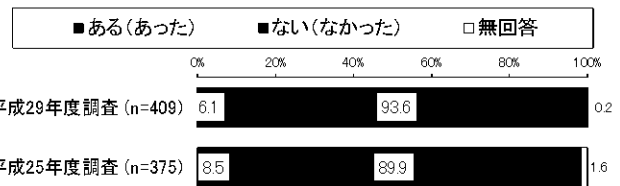
交際相手がいる、またはいたことがある人に、交際相手から暴力行為を受けたことがあるかたずねたところ、「ある（あった）」が多い行為は順に、「頻繁に電話をしてきたり、どこで誰と会っているかをしつこく聞いたりすること」（6.1%）、「あなたが用事で会えなかったとき、自分を優先しないと怒ること」（4.2%）、「携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックすること、異性の友人の番号やアドレスを消すように言われること」（2.7%）などとなっています。

【調査年度別 交際相手から暴力行為を受けた経験】

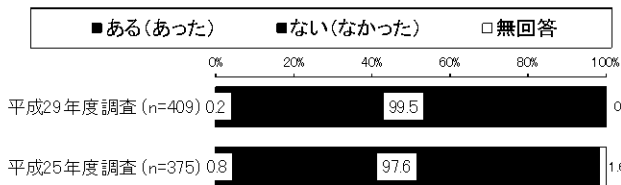
■あなたが用事で会えなかったとき、自分を優先しないと怒ること



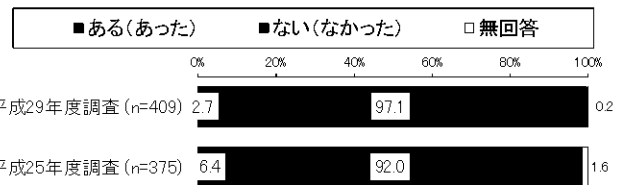
■頻繁に電話をしてきたり、どこで誰と会っているかをしつこく聞いたりすること



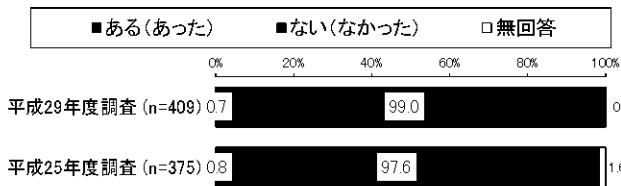
■物でなぐったり、物を投げつけたりすること



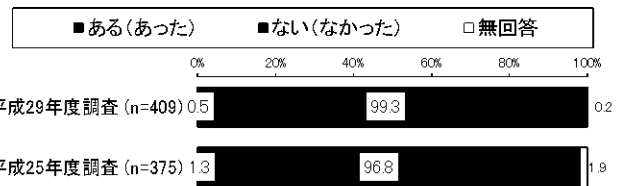
■携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックすること、異性の友人の番号やアドレスを消すように言われること



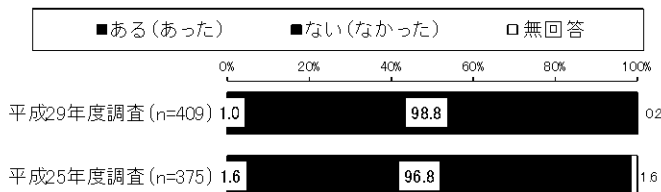
■なぐられたり、けられたりすること



■思い通りにならないと、大声で怒鳴ったり、おどしたりすること



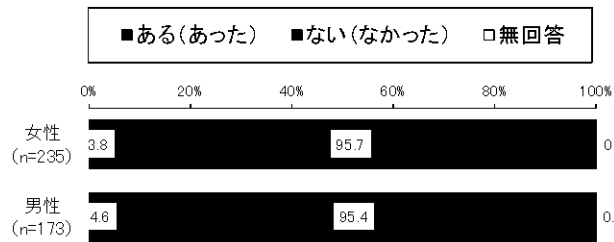
■いやがっているのに無理やり性的な行為をさせられること



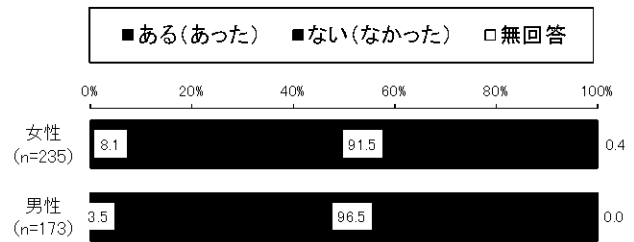
交際相手がいる、またはいたことがある人に、交際相手から暴力行為を受けたことがあるかを平成25年度調査と比べると、いずれの行為においても「ある(あった)」が減少しています。

【性別 交際相手から暴力行為を受けた経験】

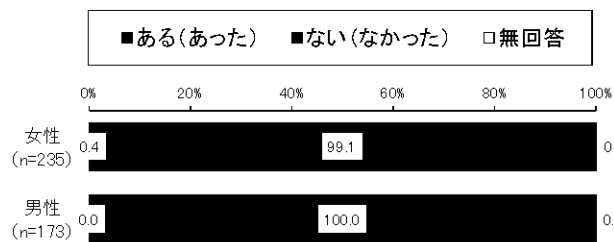
■あなたが用事で会えなかったとき、自分を優先しないと怒ること



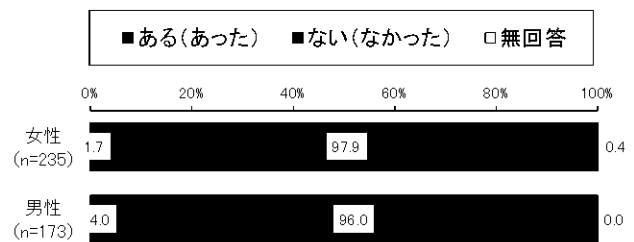
■頻繁に電話をしてきたり、どこで誰と会っているかをしつこく聞いたりすること



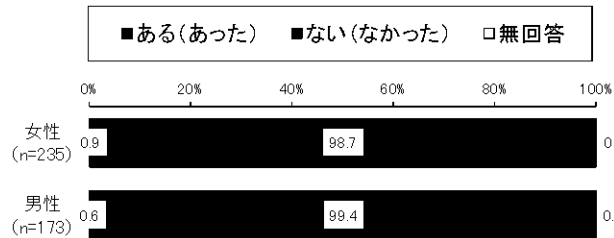
■物でなぐったり、物を投げつけたりすること



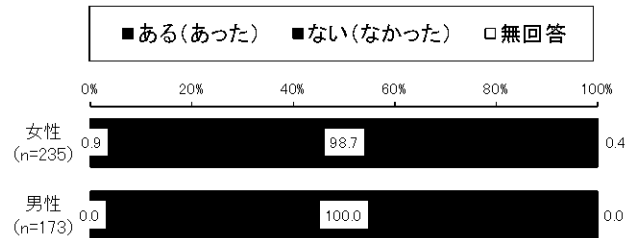
■携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックすること、異性の友人の番号やアドレスを消すように言われること



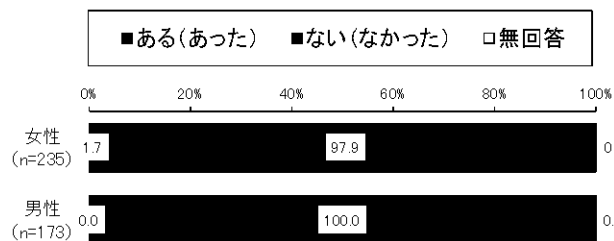
■なぐられたり、けられたりすること



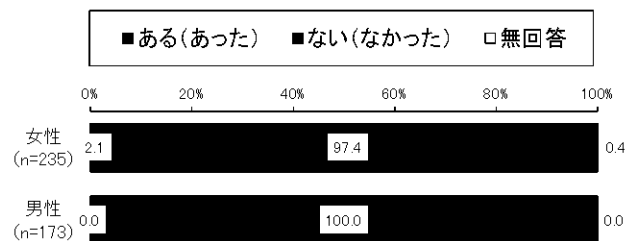
■思い通りにならないと、大声で怒鳴ったり、おどしたりすること



■いやがっているのに無理やり性的な行為をさせられること



■「ぶさいく」「バカ」「くず」など、あなたが傷つく呼び方で呼ばれること



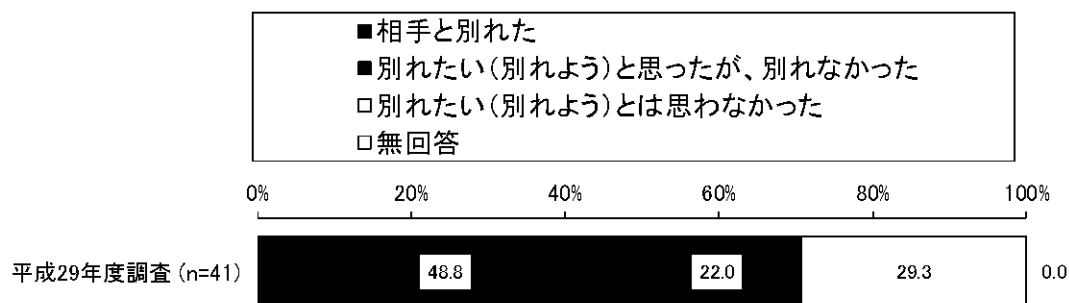
※「デート代金を払わない。あなたにお金や物を要求する。」については「ある（あった）」が0%なので割愛。

交際相手がいる、またはいたことがある人に、交際相手から暴力行為を受けたことがあるかを性別にみると、「あなたが用事で会えなかったとき、自分を優先しないと怒ること」と「携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックすること、異性の友人の番号やアドレスを消すように言われること」については男性のほうが「ある（あった）」が多くなっていますが、それ以外の行為について女性のほうが「ある（あった）」が多くなっています。

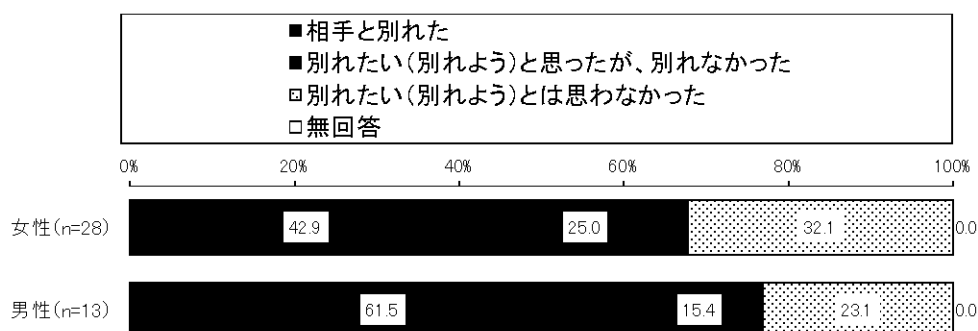
〈考察・まとめ〉

相手の行動を制限するような行為や、相手を独占するような自己中心的な行為が、減少してきてはいるものの依然として発生している状況がうかがえます。また、そういった行為は性別を問わず発生していることがうかがえます。

（６）交際相手から暴力行為を受けたときの対応とその理由



【性別 交際相手から暴力行為を受けたときの対応】



デートDVの被害を受けたことがある人に、相手との関係をどうしたかたずねたところ、「相手と別れた」が48.8%と最も多く、次いで「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が29.3%、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が22.0%となっています。

性別にみると、女性は男性と比べて「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が多く、男性は女性と比べて「相手と別れた」が多くなっています。

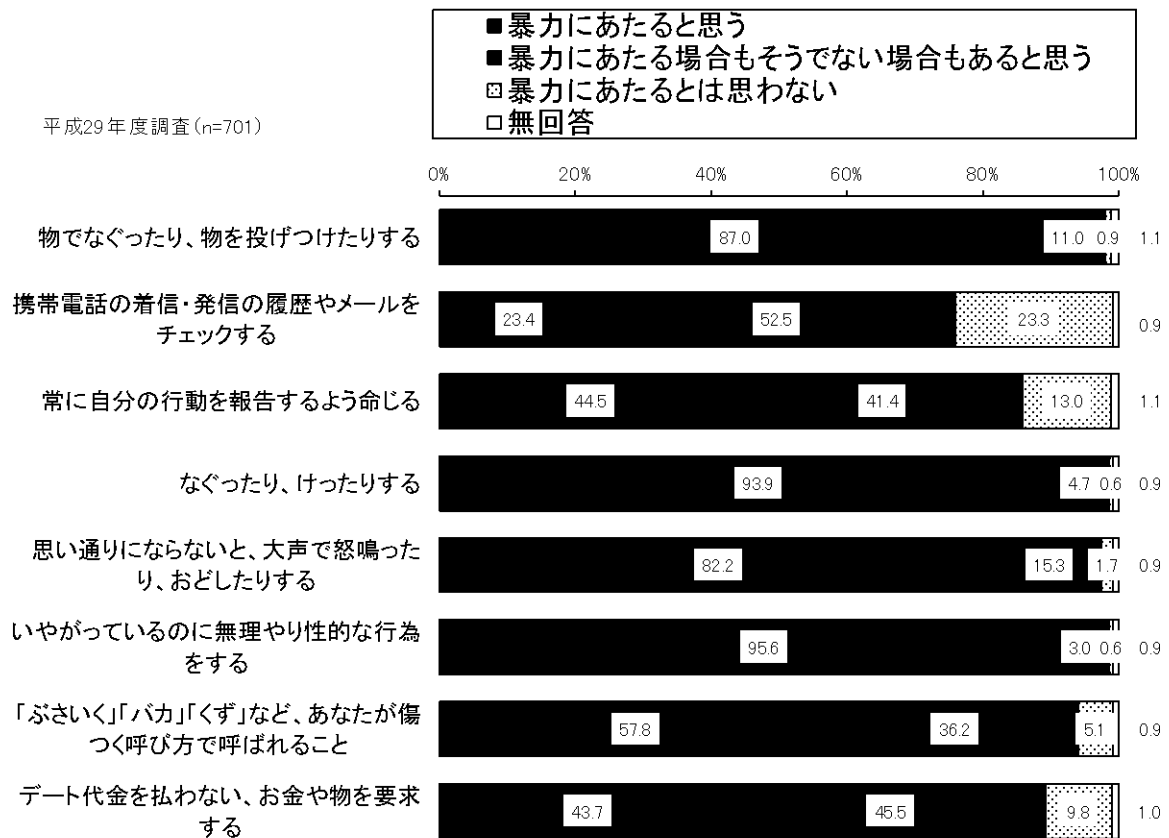


デートDVの被害を受けたとき「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「相手には自分が必要だと思ったから」との回答が1件ありました。

〈考察・まとめ〉

デートDVの被害を受けたとき、約半数の人が別れています。性別で対応や考え方が異なり、女性は男性より別れたいと思わなかったり、別れられなかったりする人が多くなっています。

(7) 暴力にあたると思う行為

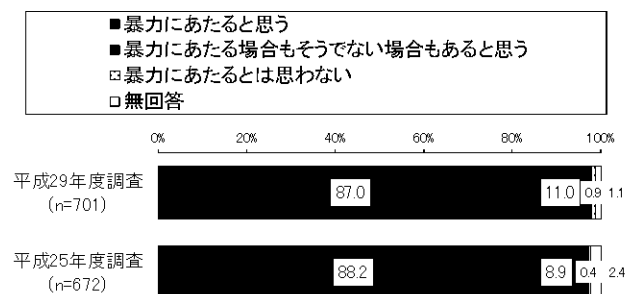


暴力にあたると思う行為をたずねたところ、「暴力にあたると思う」が多いのは順に、「いやがっているのに無理やり性的な行為をする」(95.6%)、「なぐったり、けったりする」(93.9%)、「物でなぐったり、物を投げつけたりする」(87.0%)などとなっています。

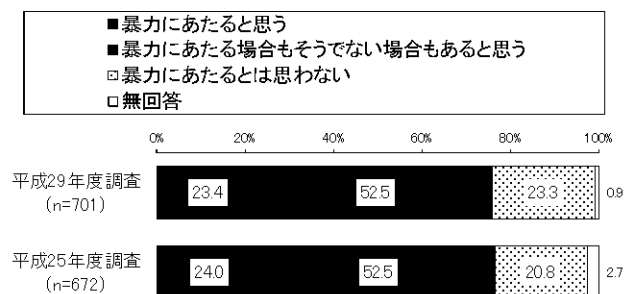
一方、「暴力にあたると思う」が少ないのは順に、「携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックする」(23.4%)、「デート代金を払わない、お金や物を要求する」(43.7%)、「常に自分の行動を報告するよう命じる」(44.5%)などとなっています。

【調査年度別 暴力にあたると思う行為】

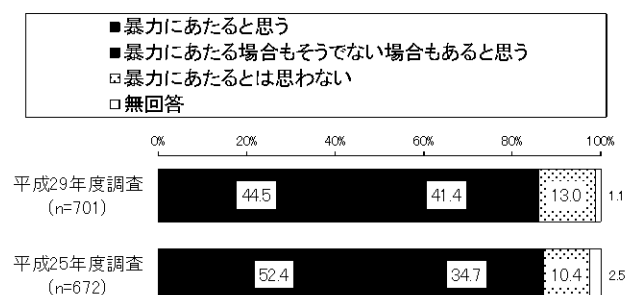
■物でなぐったり、物を投げつけたりする



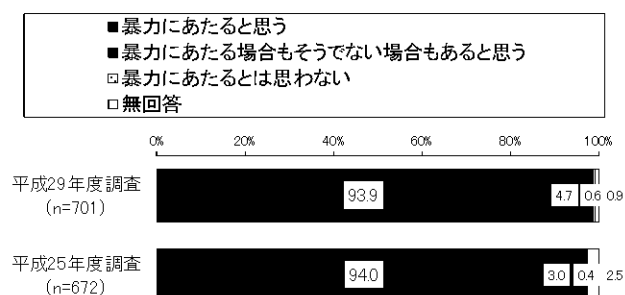
■携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックする



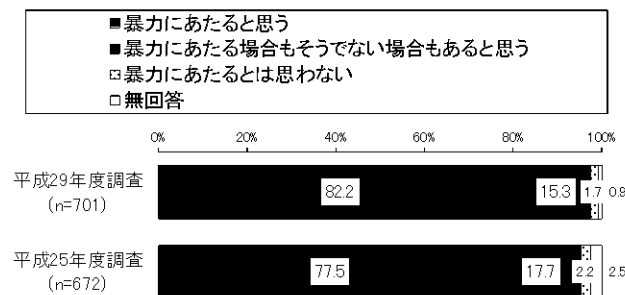
■常に自分の行動を報告するよう命じる



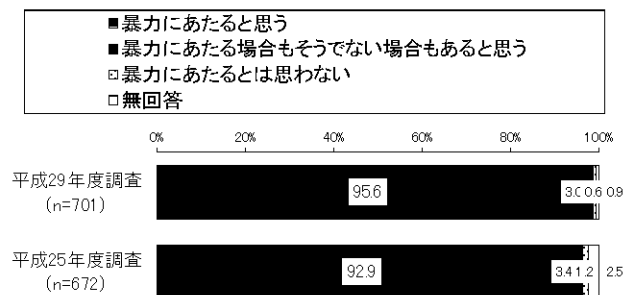
■なぐったり、けったりする



■思い通りにならないと、大声で怒鳴ったり、おどしたりする



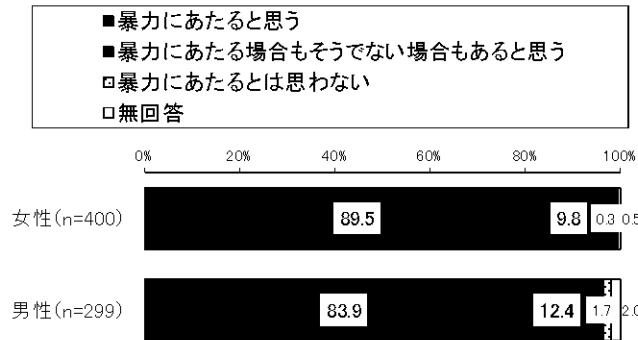
■いやがっているのに無理やり性的な行為をする



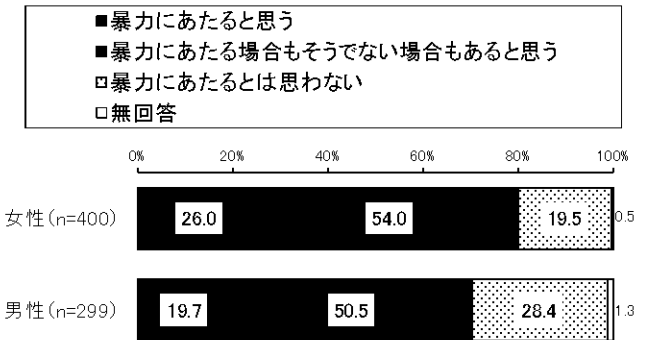
暴力にあたると思う行為を平成25年度調査と比べると、「常に自分の行動を報告するよう命じる」については「暴力にあたると思う」が減少しています。「思い通りにならないと、大声で怒鳴ったり、おどしたりする」と「いやがっているのに無理やり性的な行為をする」については「暴力にあたると思う」が増加しています。

【性別 暴力にあたると思う行為】

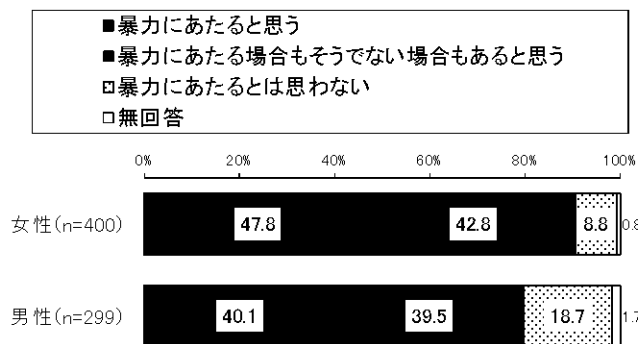
■物でなぐったり、物を投げつけたりする



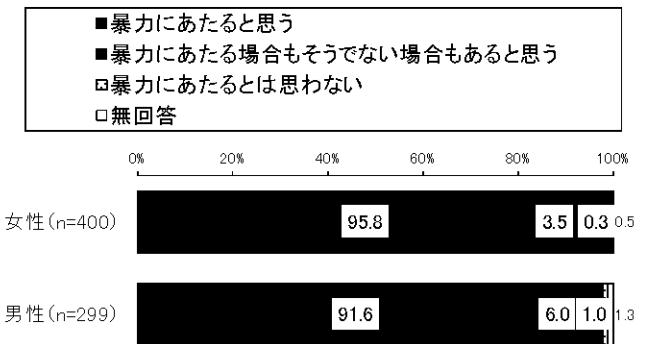
■携帯電話の着信・発信の履歴やメールをチェックする



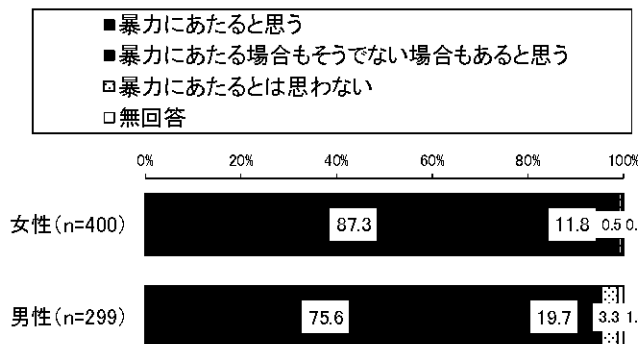
■常に自分の行動を報告するよう命じる



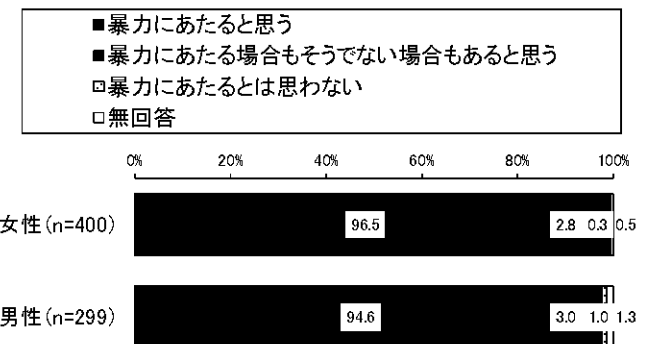
■なぐったり、けったりする



■思い通りにならないと、大声で怒鳴ったり、おどしたりする

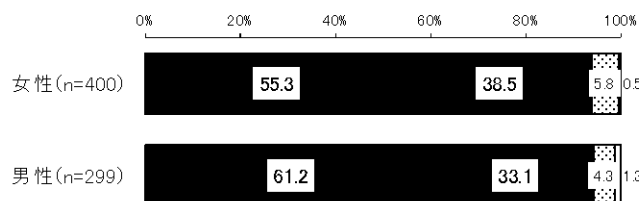


■いやがっているのに無理やり性的な行為をする



■「ぶさいく」「バカ」「くず」など、あなたが傷つく呼び方でよばれること

- 暴力にあたると思う
- 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- 無回答



■デート代金を払わない、お金や物を要求する

- 暴力にあたると思う
- 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- 無回答

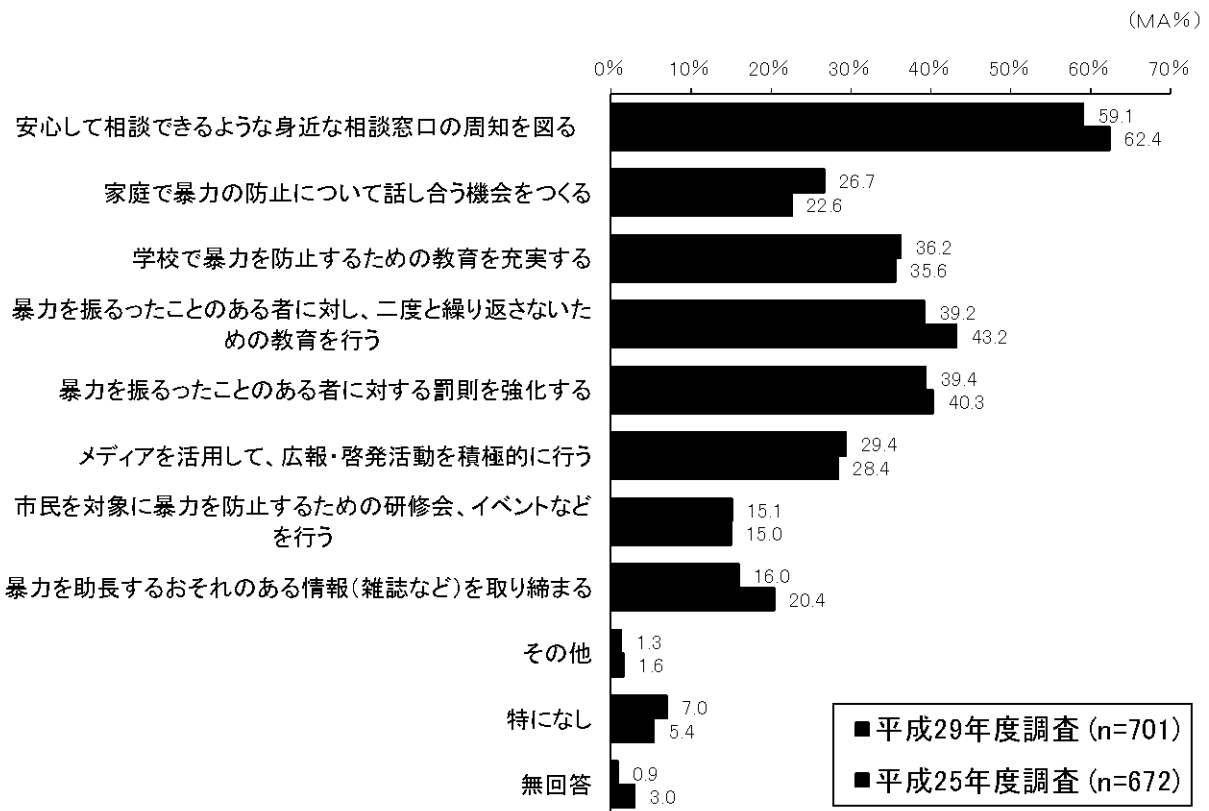


暴力にあたると思う行為を性別にみると、「「ぶさいく」「バカ」「くず」など、あなたが傷つく呼び方でよばれること」については女性が男性と比べて「暴力にあたると思う」が少なくなっていますが、それ以外の行為について男性が女性と比べて「暴力にあたると思う」が少なくなっています。

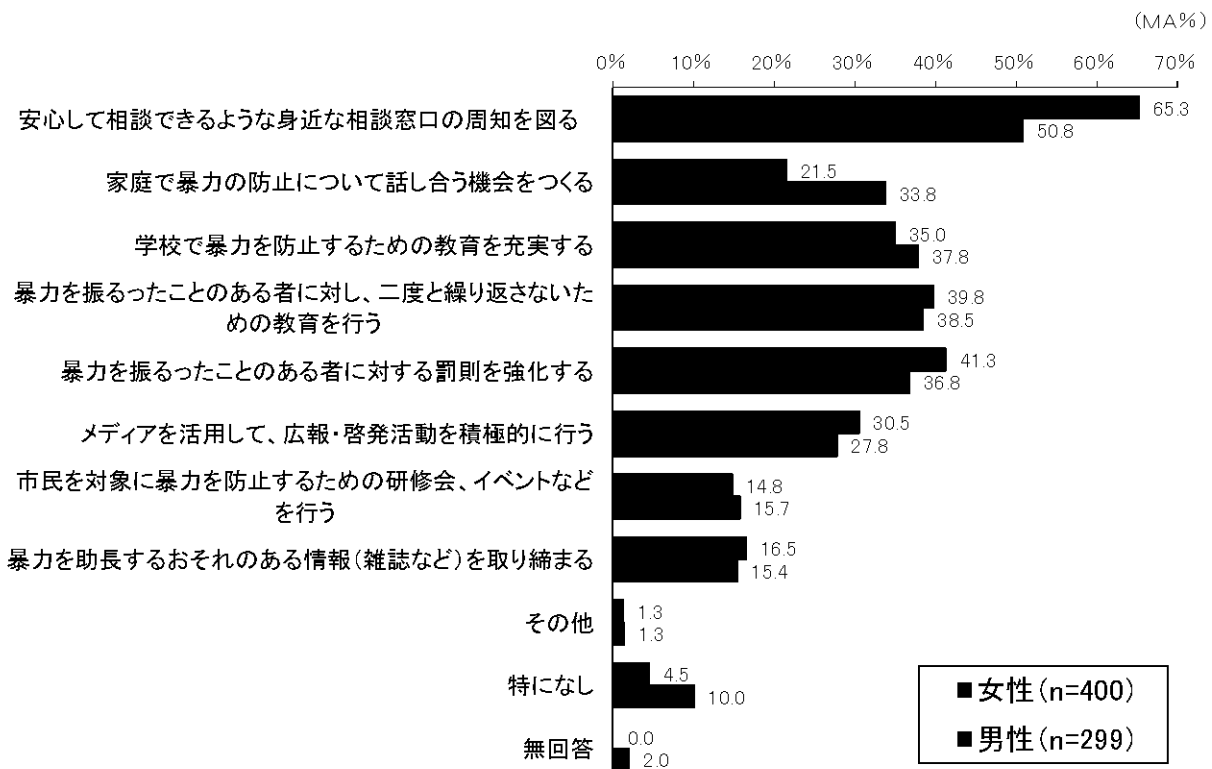
〈考察・まとめ〉

設問の行為はすべてデートDVに該当する行為ですが、大声で怒鳴ることや合意のない性的行為、物で殴るといった暴力とわかりやすい行為については暴力であるという認識が高いものの、相手を監視したり行動を制限するような行為、金銭的な負担を相手に負わせる行為については暴力との認識が低くなっていることがうかがえます。

(8) 交際相手からの暴力を防止するために必要なこと



【性別 交際相手からの暴力を防止するために必要なこと】



交際相手からの暴力を防止するために必要なことをたずねたところ、「安心して相談できるような身近な相談窓口の周知を図る」が 59.1%と最も多く、次いで「暴力を振るったことのある者に対する罰則を強化する」が 39.4%、「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」が 39.2%などとなっています。

平成 25 年度調査と比べると、おおむね同様の回答の傾向となっています。

性別にみると、男女ともに「安心して相談できるような身近な相談窓口の周知を図る」が最も多くなっていますが、女性は男性を大きく上回っています。

〈考察・まとめ〉

デートDV防止に向けては、身近な相談窓口の周知が最も多く、まずはDVが発生したときの早期対応が重要であると考える人が多いことがうかがえます。次いで、加害者への罰則強化や教育といった再犯の防止の取り組みが重要と考えている人が多いことがうかがえます。

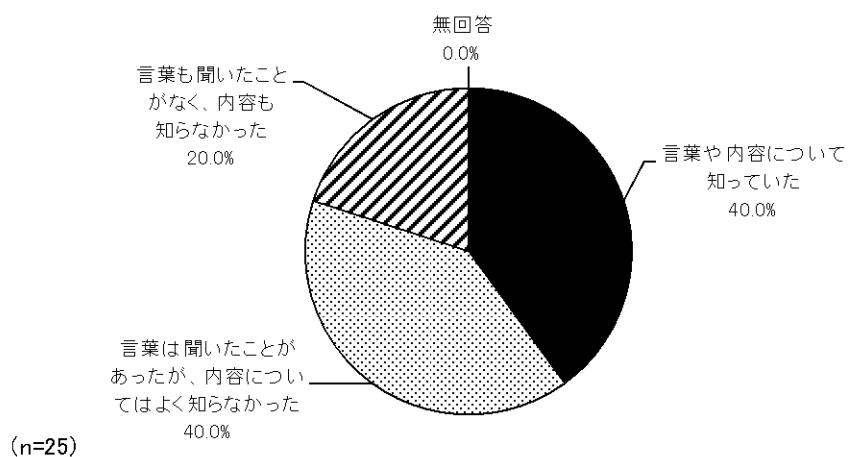
IV 平成 29 年度加東市連合 P T A 研修会でのアンケート調査結果

1. 調査の概要

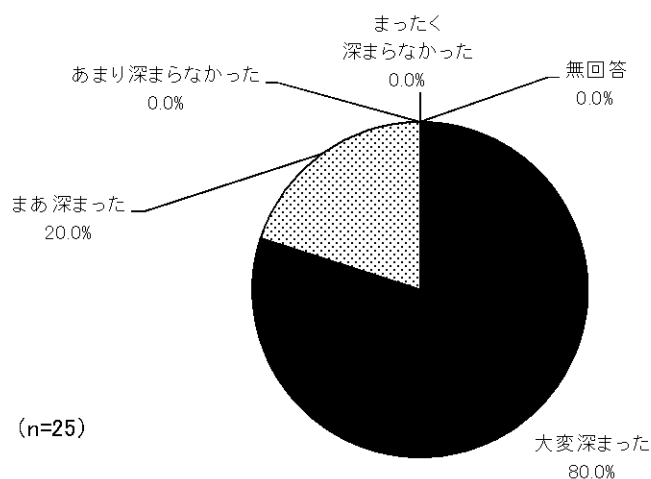
- 調査日：平成 30 年 2 月 4 日（日）
- 調査対象：平成 29 年度加東市連合 P T A 研修会参加者 25 名全員（全員から回答あり）

2. 調査結果

デートDVの認知状況についてたずねたところ、「言葉や内容について知っていた」が 40.0% となっています。



デートDVについて理解が深まったかたずねたところ、「大変深まった」が 80.0% となっています。



本日の講演会は満足できるものかたずねたところ、「大変満足だった」が72.0%となっています。

